

学科	看護学科
氏名	定永 敦司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護形態機能学Ⅰ	1	前期	必修	いいえ	95

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	解剖生理学は、看護学科の基礎となる必修科目である。学習内容が膨大で、かつ、教科書もやや難しくイメージしにくい分野もあり、苦手意識を持つ学生さんも多い。臨床の話題を積極的に取り入れ、興味を持ってもらえるように、学習の動機づけに重点を置いた。具体例を挙げ、視覚的に理解しやすい資料準備をこころがけた。毎回小テストを行い、復習に重点をおいた。また、国家試験対策として、演習問題を取り入れた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	DP（1）～（6）の到達度自己評価 4. 3～4. 6であり、概ね達成された。基礎的な問題を中心に出題した定期試験の平均点は、60点満点中、57点と非常に高く、日々の小テストや国家試験対策の演習の成果がでた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	基礎知識の形成と、学習意欲の維持、苦手意識を持たせないことは、ある程度達成できたので、内容的に妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	講義資料が膨大で、早口になったコマもあり、講義内容を少し整理したい。授業の質の評価（4）が、3. 9と低かったのと、講義中の質問が少なかった（講義終了後は質問あり）ので、講義中に質問がしやすい環境づくりを心がけたい。また、講義中に学生さんが発表する機会を作れなかったので、次年度は積極的にコミュニケーションをとり、発表の場をもうけたりしたい。小テストは続けたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	基礎的知識の形成は概ね達成できたので、学習意欲を保ったまま、後半の形態機能学IIや疾病学総論につなげていきたい。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	看護学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
感染と免疫	1	前期	必修	いいえ	98

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①今年度は、ポートフォリオ・「ポイント整理」をまとめる方法について、第3回めの講義でモデルを示しながら指導した。また、講義に自身で作成したポートフォリオ・「ポイント整理」を常に持参するよう指示し、講義中にラウンドして整理の状況を確認した。整理の仕方、まとめ方がうまくいってない学生には直接指導した。 ②学内実習は、講義を活かしたものに実践の場として必須のものと考えている。今年度は、特に医療現場における感染症患者疑いがある患者の検体採取から細菌観察までを、基礎看護技術にリンクさせるような内容を組み込み実施した。 ③例年、講義内容を整理するプリント「ポイント整理」と小テストを組み合わせた形で主体的学習を促すようにしている。今年度は、正答率が悪い問題について丁寧に解説をし、自身で振り返りができる機会を設けた。 ④質問は講義中だけでなく講義時間外にも積極的にうける取り組みをした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①総合評価の平均値は76点（±12.0）で、73%の学生が標準的レベル（70点以上）に達し、理想的レベル（80点以上）に達した学生は39%であった。小テストの平均点は20/30点（得点率67%）であった。DP1（知識）の平均点は68/90点（得点率76%）、DP2（思考）の平均点は8.1/10点（得点率81%）だった。 ②学生の到達度自己評価では"自分なりに目標を達成した4.4"、"新しい知識など得ることができた4.6"、"専門分野について課題を検討する力を得た4.6"、"学びを深めたいと意欲をもつことができた4.6"であった。 ③授業の質評価では、"テストの評価基準の明確さ4.6、課題の明確さ4.6"、"説明の理解しやすさ4.6"、"質問を受ける機会を設けていた4.4"であった。 ④学習量の評価をみると1回30分の予習・復習を4～5回以上した学生が58％・67％、2～3回以上した学生が83％・84％、課題以外に学習に取り組んだ学生が80％であった。一方、予習・復習をしてない学生は11％・0.01％認めた。図書館利用率は66.7％、インターネット利用率は72.2％であった。今年度の学生の自由意見から、かなり学生が積極的にポイント整理や小テストに向けて学習に取り組んだ様子が窺えた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 専門基礎科目として医療に関わる基礎知識を修得し、専門科目につなぐ科目である。CP上の位置付けは妥当である。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 科目内容は、医学系の知識を主に学ぶため難しい科目である。しかし、学生の自己評価から、一定の評価を得ている。講義内容は妥当であったと考える。 ③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容も妥当である。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①講義中にきかれた学生意見から、ラウンドによるポートフォリオ・「ポイント整理」の点検確認、及び、まとめ方についてのアドバイスで、小テストの得点が上がったとの意見が聞かれた。今回の取り組みは、学生のモチベーションアップと科目への苦手意識を払拭する意味から、ある一定の効果があったと考える。 ②加えて、上記の取り組みにより、ラウンド中に学生が、「ポイント整理」を互いに見せ合う、話しあうなど、学び合う姿勢を作る効果にもなった。 ③今年度は、例年に比較して、主体的学習量が増える傾向を認めた。科目平均値、学習の質評価も高かったことから、上記①の取り組みを次年度も続け学習効果についての検討を行う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生の自己評価・成績から知識修得の到達目標はやや達成され、思考の到達目標は達成された。全体の総合評価から見ると、理想的レベルに達した学生が39%、標準レベルが73%という数値ではあるが、本試験の内容を国家試験と同等のレベル（60%）となるように意識していることから、96%の学生は目標に到達していると考える。今後も今年の授業改善をプラスし、国家試験レベルの知識を担保できるようにする。

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疾病学各論Ⅰ	2	前期	必修	いいえ	88

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	疾病学各論は、各分野の主要な疾病について概念、疫学、症状、検査、治療などを解説する系統講義です。疾病の知識は、全ての看護科目を学ぶうえで基礎となり、将来に臨床現場で看護業務を行うために必要不可欠です。看護師国家試験でもこの範囲から多くの問題が出題されます。 疾病学各論Ⅰでは、内科疾患(呼吸器、循環器、消化管、肝胆膵、代謝、内分泌、神経、救急)と外科、麻酔科、婦人科疾患について講義しました。外科、麻酔科、婦人科は医療現場の最前線にいる現役の専門医に外部講師を依頼し、内科疾患は長年の臨床経験がある私が担当しました。範囲が膨大ですので、臨床現場で重要なことや看護師国家試験に出題されることにポイントを絞って、要領よく解説するように工夫しました。また、臨床現場での経験談なども紹介したり、外科の外部講師は手術の映像を見せるなど、学生さんが興味を持って取り組めるように心がけました。 授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」が100%ですが、「資格取得に必要である」「関心のある内容である」などの回答もあり、看護師になる自覚や国家試験に意識を持ち始めた表れと考えます。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験と授業貢献度の総合判定で、平均値は79.5点（最高100点、最低39点、中央値82点）でした。秀：19名、優：33名、良：18名、可：13名でした。理想的レベル（80点以上）に到達したひとが全体の6割でした。60点未満で再試験を受験したのは4名でした。学生さんの授業態度も良好でした。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、ほとんどの項目で「まあそうだと思う」以上の達成感を示す回答が大多数でした。皆さんが必死に勉強した表れだと思います。コミュニケーションや表現力の評価がやや低いのは毎年ですが、主に医学知識を教授する座学の講義であるのでやむおえないと思います。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「疾病学各論Ⅰ」は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。1年次で学んだ「形態機能学」や「感染と免疫」を基礎として、2年次以降の全ての看護専門科目の学びに不可欠な内容を教授します。看護師国家試験にも疾患に関する問題が多く出題されますので、早くからの勉強が必要です。疾病学の残りの分野（疾病学各論Ⅱ）や薬理学は同時期に開講されます。 学生さんの受講態度、試験の結果、到達度自己評価などからみて、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけからみて、内容的妥当性に問題はないと考えます。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価をみると、ほとんどの項目において「まあそうだと思う」以上の評価を得ています。学生参加の評価が低いのは毎年の課題ですが、ストリームにあがった質問に対してはできるだけ次回の授業で説明するようにしました。 アンケートの学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている学生さんは約4割でした。自由記載をみると、授業以外での学習量が少ない理由として「授業中に理解できたので」という解答も複数ありましたが、「課題が出てないので」という意見もありました。次年度は課題も考えたいと思いますが、「他科目の課題が多くて時間がない」という意見も多くありますので慎重に検討します。 なお、本科目では外科・麻酔科・婦人科の講義が外部講師のオムニバス形式になるため、試験問題を私が見直すなどして出題形式や難易度に統一性を持たせるように試みました。次年度も継続したいと思います。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	疾病学の知識は、臨床現場で看護を実践するために基盤となるもので、看護師国家試験に合格するためにも不可欠です。大多数の学生さんは標準的レベルに到達することができたと判断しました。 後期以降も病院実習などを通して疾病に関する興味を高め、自分で勉強を進めていって欲しいと思います。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	看護学科
氏名	水貝 洵子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
対人関係論	1	前期	必修	いいえ	95

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1年前期に開講される科目のため、初回数回の授業では心理学の導入を行い、ひとの心的過程を対象とした学問の特徴について理解が深まるよう配慮した。 また、「関心のある内容である」を受講動機として選択している学生は8名（93名中）と少ないため、学生の受講動機が高まるよう心理学や社会心理学の基礎知識が日常生活や対人援助場面にどのように関連するかについても解説を行うようところがけた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	平均点は80.7点であり、受講学生間の個人差はあるものの、概ね授業目標は達成されたと考えられる。 図書館、インターネット利用が少なかったのは、本講義が発展的に学ぼうとする学生の意欲へとつながらなかったためと考えられる。定期的に授業内容だけでなく他の情報を活用しながら作成する発展的な課題を提示するなどして、学生の発展的な学習態度へとつながる工夫を行いたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1年前期開講科目であり、心理学の学習自体が初めてである学生が大半を占めていると考え、基礎的な理解を問うDP1およびDP2を目標とすることは妥当であると考えられる。 また、授業内容についても、心理学の導入や対人関係、コミュニケーションの成立ちや特徴についての解説であり、DP1およびDP2に対応しており妥当であったと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本講義では授業内容に関する質問に対する回答時間を設けたが、今後は、学生自身の自発的な学びのため、より発展的なテーマの提示や書籍等の紹介を行ってきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業目標と授業内容の関連性は妥当であり、受講学生も概ね目標を達成することが出来ており、授業内容の難易度と進行度は妥当であったと考えられる。 今後は、学生の発展的な学びのために、さらなるテーマや書籍の提示をおこなってきたい。

学科	看護学科
氏名	鹿毛 美香

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
健康教育論	2	前期	必修	いいえ	86

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、看護学科専門教科科目のうち「看護を学ぶための基礎」として置かれており、看護師課程の必修科目であるが、看護師として必要な患者教育の観点、保健師として必要な予防的健康教育の観点の双方を学ぶ機会であり、基礎知識の習得とその理解が求められる。今年度は、対面授業8コマで構成され、2年次の成人看護学関連科目および3年次の公衆衛生看護技術論と連動させ展開している。 学生の受講動機は、「必修科目である」が98.0%であるが、それ以外に「関心のある内容である」と答えているものが4%であり、今回の受講学生は必修科目であるため受講しているが、中には興味関心をもって科目に期待をしている学生がいることが示された。しかし、多くの学生は必修科目であることが受講動機であるため、看護師および保健師の活動事例を提示する等しながら興味関心を持たせる工夫が必要であることがわかった。 この科目は、理論を押さえることを重点とし、その得た知識をどう活用していくのかという学生の発展性に期待しているため、必ず単元ごとに理論の理解→事例課題→知識・活用方法の定着を基本個人ワークとして取り組むようにした。また、毎回授業後に「学びの内容と質問」自由記載させ、個々の学修状況を確認した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、81.57(±8.06)点であり、再試対象者は1名であった。GPAの理想的レベル（成績「優」・「秀」レベルとする）に到達した学生は67.44%、成績「良」レベルが27.90%で、概ね優秀な成績を収めている。 DPの目標別達成率として、DP1「知識・理解」88.21%、DP2「思考・判断」71.56%であった。思考判断では、与えられた課題を解決する際に学習の中で得た知識を活用し、応用していくことが必要であるが、その点の習得がやや十分ではなかったことが示されが、本科目は知識理解を得ることに重点を置いており、その点においては達成されたと考えられるた。加えて、「学生の到達度自己評価」においてコミュニケーション力を高める機会が授業時間に少ないと回答している学生が数名いることから、グループワークの内容や頻度について次年度の課題と捉え、検討していきたい。また、科目の性質上、職業倫理を考えさせる機会を明確に提示しておらず、講義内容からそれを感じることが出来なかった学生がい数名いたため、次年度の課題とする。 しかし、学生の成績およびDPの目標別達成率からみると、学生は、概ねこの科目の目標に達成していると考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は必修科目であり、若干の興味を持って学生は受講している。授業内容としては、成人看護学関連科目および公衆衛生看護技術論の内容と連動させ進行している。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からみると平均値は80点を超え、DP1「知識・理解」の到達率は80%、DP2「思考・判断」の到達率は70%を達しているため、内容的には妥当であるとする。 ③まとめ 以上、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の「到達度自己評価」の平均値は3.8～4.1、中央値はすべての項目で4.0であった。「学生の到達度自己評価」の平均点でもっとも高い項目は「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討することができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることが出来た」「職業選択の参考になった」で4.1、もっとも低い項目は「コミュニケーションや表現力を高めることができた」の3.7であった。 学生による「授業の質評価」の平均値は4.0～4.4、中央値は4.0～5.0と高い値であった。しかし、その中で平均値、中央値ともに低い項目は「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会がつくられていた」4.0であった。 学生の「到達度自己評価」、学生による「授業の質評価」の平均値が低い項目をみると、コミュニケーション力を高める機会が授業時間に少なく、グループワークの内容や頻度について不足していたと考えられる。科目の性質上、演習科目ほど多くは時間を作ることは難しいが、単元ごとの理論の理解→事例課題→知識・活用方法のステップ時にグループワークもしくはシンク・ペア・シェアを用い、学生自身の意見を表現できる機会を設けていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は看護師課程の必修科目であるが、看護師として必要な患者教育の観点、保健師として必要な予防的健康教育の観点の双方を学ぶ機会であり、基礎知識の習得とその理解が求められる。基本的な知識の獲得については達成できたが、思考判断の面では課題を残した。この点は、関係科目担当教員と共有し、指導を継続する予定である。 授業を振り返ると、全体的成績としては、概ね目標に達成する成績を修めているが、思考判断力の獲得や思考を表現する機会としてグループワークやシンク・ペア・シェアなどの活動時間をできる限り確保し、改善を図りたい。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	看護学科
氏名	金山 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護学概論	1	前期	必修	いいえ	95

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	「看護学概論」は1年次前期の必修科目であり、受講動機は、「必修科目」が100%である。学生は大学に入学直後であり、主体的学習となるよう、学生間の人間関係を形成し始めたばかりである。そのため感染予防対策に注意した座席としてグループワークを導入し、グループメンバーとのコミュニケーションがとれるように配慮した。 講義は教科書と講義資料を配布して授業を進めた。特に第1回目の講義は、本科目の授業の進め方、グループワークの進め方、レポート課題などの説明等に配慮した。また、お知らせは、google classroomを利用した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①評価基準はテスト60%、レポート30%、発表10%で評価を行った。成績の平均値は79.5 ±6.0 点であった。 ②授業評価は、履修者95名中82名の回答であり、回収率は86.3%であった。「到達度自己評価」では、98.7%の学生は自分なりに目標を達成したという肯定的な回答であった。項目別の評価平均は「知識を確認、修正、新たに得た」が4.4、「事象を理解する視点や考え方を得た」4.2、「課題を検討する力を得た」4.4、「的確に判断する力を得た」4.2、「学びを深めたいと意欲を持った」4.3、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」4.2、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」4.3、「職業選択の参考になった」4.0であった。全体を通して、目標は「達成された」と考える。 ③学習量の評価については、予習、復習は74%の学生が取り組んでいた。授業の課題以外に取り組んだ学習では、「講義で気になったところを教科書や図書館、インターネットで調べた」「まとめノートを使って知識を深めた」「教科書を読んだ」などであった。また、授業の課題以外の学習に取り組んでいない理由は、「授業内で理解できていた」「課題で精一杯だった」「他教科の課題で忙しかった」「時間がなかった」などの学生の回答があった。予習・復習についての課題提示の工夫が必要であると考え。 ④情報利用では、初回にシラバスを全員に配布し説明したが、65%が参考にしていたが、あらかじめ授業の計画を立案した人は27%であった。また、インターネットによる情報検索は73%の学生が利用、図書館の図書の利用は54%であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての妥当性 1年次の看護専門科目であり、看護実践の基盤となる科目に位置付けられている。学生も一定の成績を修めていることから、内容的に妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標から見ての内容的妥当性 看護の概念や、看護倫理、看護関連の法律や制度などの基礎的知識を理解し、到達度自己評価では、「自分なりの目標を達成した」「知識を確認、修正、新たに得る」「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得る」「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得る」「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得る」「学びを深めたいと意欲を持つことができた」などの項目において、肯定的な評価であった。また、学生も一定の成績を修めていることから、内容的に妥当であると考ええる。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性に問題は無いと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①講義は教科書を使用し、パワーポイントで作成した講義資料を配布した。また、学生の意見交換や発表の時間を多くとるようにした。看護の概念について、レポート作成とグループワークを導入し、意見交換や学習成果発表会を設定し、学びを共有した。また、自己の看護観をレポートに記述することができた。さらに、最終回は「看護における今後の課題」を考えるというテーマで、レポート作成、発表会を設定し、学びを共有した。 ②授業の質の評価では、項目別に「テスト、レポート、提出物の評価基準は明らか」4.4、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らか」4.5、「説明は理解しやすいものであった」4.0、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表など学生が参加する機会」4.7、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.1であった。 授業評価では、シラバスや授業の進め方、課題について講義ごとに説明をして確認をしているが、1～3名の学生は到達度自己評価を低く回答しているので、次年度の授業では、わかりやすく説明することが課題である。
7. 総括的评价と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的评价と課題をお示しください。	学習の到達目標は全体的に達成できたと考える。しかし、少数ではあるが、到達度自己評価が低い学生がいるので、個別指導が課題である。 今後も主体的な学習を取り入れ、グループ学習・発表の機会を作り、学習内容を深めることができるように工夫する。講義内容は、さらにわかりやすくなるように注意して説明を工夫することが必要である。

学科	看護学科
氏名	梶原 江美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護過程論	2	前期	必修	いいえ	86

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	看護過程論（専門科目 必修2単位）の看護の対象となる人々の生活上のニーズや健康上の問題、対象が持つ強みをアセスメントして、明らかにした看護問題を解決するための計画を立案し、実施、評価をする一連の看護のプロセスを学ぶ科目である。人間の身体と心は連関していることは容易に想像でき、かつ看護過程の考え方もシンプルである。しかし、実際に患者の看護を考えようとすると非常に難しく感じ、短絡的に考えることも多い。履修者は、前年度末に基礎看護学実習Ⅰで初めて患者を受持つ経験をしている。そのため、導入として、実習最終日には患者の看護を考えるにあたっての一連のプロセスを既習の知識をより関連付けて思考をすることで患者の看護に活かす学びを本科目で行うことを説明し、取り組む疾患の予習を促した。 授業でのグループワーク（GW）に臨むにあたっては、個人での課題に取り組んでGWに臨むようにする他、質問を聞く機会を授業中に設け、情報のアセスメントを行う際に多様な捉え方があることなどを発表会を通じて理解を進めるようにした。また、考えるにあたっては、一般的な考え方や記載例、参考図書の紹介を行うことで理解を促す助言をした。本科目は、履修後の9月に行う基礎看護学実習Ⅱを見据えて、事例の提示は模擬の電子カルテを用いる、使用する記録用紙を連動する、実施は実習室での実践とし、評価を行うよう連動を意識した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された		達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均点は77.1点で、再試験者は0名だった(優-25名、良-50名、可-9名)。 到達度自己評価では、すべての項目で平均4.0以上で、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項目が平均値4.2、「自分が学ぼうとしている専門分野について、的確に判断する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」「事象（支援、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」「職業倫理や行動規範（守るべきルールなど）について学ぶことができた」が4.1であり、「自分なりの目標を達成した」「職業選択の参考になった」が4.0となっており、本科目の教育目的は一定の成果が出ていると評価できる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、一連の看護のプロセスである看護過程を学ぶ必修科目である。本科目で初めて看護過程を展開する学修となることから、既習の知識の整理、事例患者への展開についての事前課題が必須であり、主体的に課題に取り組みGWに臨むことが求められる。到達度自己評価や最終的な成績から科目の目的は達成されたと判断でき、内容的にも妥当であるとする。 DP別にみると、知識・理解（DP-1-2）、思考・判断（DP2-1）、態度（DP4-1、DP4-2）、技能・表現（DP5-1）に位置付けている。各DPの平均はともに標準レベル以上であったことから、内容はおおむね妥当だったと判断している。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会がつけられていた」が4.5、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それにこたえる機会が作られていた」が4.4、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」が4.5、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」4.1、「説明は理解しやすいものであった」は、3.8であった。引続き、6名の教員ともGW指導内容や学生の理解度などをさらに共有し改善・工夫に努めていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の達成状況については、授業成績及び授業評価アンケートより計画している状況は、概ね達成できていると評価している。 本科目は、看護の思考過程を学ぶ基礎の部分であり、臨地実習や各領域の専門科目につながるものである。基本の特性上、GWを取り入れているが、まずは自分で考えて課題に取り組むことで、初めて難しさや面白さに気づく。その重要性の認識と理解を促すことを念頭に今後も努めていきたいと考えている。

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護学概論	2	前期	必修	いいえ	87

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、新カリキュラムとなり、1年生後期から2年生前期に位置付けられた必修科目である。 学生の受講動機は、以前と変わらず「必修科目である」ことが、100.0%を占めている。 臨床の看護と比べ、公衆衛生看護に対するイメージがつかない学生が多いため、第1回の授業では、本科目を学ぶ意義について重点をおいた説明を行い、毎時の授業では、講義開始の冒頭で本時の学習目的を学生が理解しやすい言葉で説明した。 毎時の授業においては、コメントカードの活用及び振り返りを丁寧に実施した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は82.7点であり、再試対象者は5名であった。標準的レベルに達した学生が94.3%であった。内、理想的レベルに達した者は78.3%が達成した。 目標別にみると、知識理解に関しては81.0%、思考判断に関しては81.0%、意欲・関心に関しては91.0%であった。 学生による授業評価においては、今年度は受講生87名中、回答者35名と低いのが残念である。最終授業終了時実施したが、全員の回答を得ることができなかった。到達度自己評価において、4.0以上であったのは、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「職業選択の参考になった」であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP、CPカリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性においては、最終的な成績において、観点別項目における到達は約8割を超えているため一定の成果は上げていると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目は、必修科目であるため保健師課程のみが関係する科目と捉えられないよう、学生自身が地域における生活者として自覚し、看護者の視点を備えていけることを目指し取り組む必要がある。 今年度も、特に科目導入時及び毎時の授業時に学習する意味について説明を加え、授業を展開したことで、科目の評価として、94.3%が標準的レベルに達し、かつ7割の学生が理想的レベルに達した。学生が達成すべき行動目標が概ね達成できたと考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	旧カリでは、本科目は「看護の基本」に位置づけられていたが、新カリでは公衆衛生看護関係科目に位置づけられた、本科目の役割を果たすために、講義内容では、公衆衛生看護の実践事例を取り上げることが多く、そのことで、受講動機から講義終了時には公衆衛生看護の必要性や課程選択希望への繋がった学生が多くみられた。 今後、日本の社会における地域における看護活動は重視される状況にあるため、受講学生全員が公衆衛生看護活動への関心を深めるよう努めることが重要である。

学科	看護学科
氏名	樋口 由貴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
小児看護学概論	2	前期	必修	いいえ	87

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機から見ると「必修科目である」100%、「資格取得に必要なである」21.5%、「関心のある内容である」6.0%であり、必修科目であることから受講しており、多くの学生が、関心をもっていない状況であった。そのため、具体的事例や動画を用いる工夫をし、学生の関心をひき、理解しながら知識を定着できるようにした。 ②知識習得とその理解が必要となるため、定期試験の他に小テストを6回実施した。また、レポートを課し、新聞やネットニュースなどから自分で調べることで、現在の子どもを取り巻く環境や社会について興味を持ち、理解を深めるようにした。 ③講義の理解状況を把握する目的と、学生自身が講義に学びや考え、疑問などを持ちながら参加できる目的として、講義終了時に毎回「学び票」を記入するようにし、その中で質問などを受け付け、個別もしくは次回講義中に全体に向けて回答するようにした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①総合評価な平均値は78.8点であり、86.2%の学生が標準的レベル（70点以上）に達し、そのうち理想的レベル（80点以上）に達した学生は51.7%であった。再試対象者は4名。再試を実施し、3名が合格し1名は再試放棄となった。試験の平均点は47.4/60点（得点率79%）、小テストの平均点は22/30点（得点率73.3%）、レポート9/10点（得点率90%）であった。DP1の平均点は21/25点（得点率84%）、DP2の平均点は57.5/75点（得点率76.7%）だった。 ②学生の到達度自己評価では"自分なりに目標を達成した4.3"、"新しい知識など得ることができた4.5"、"専門分野について課題を検討する力を得た4.4"、"学びを深めたいと意欲をもつことができた4.4"であった。この結果から、意欲を持ち学ぶことはでき、知識・理解の習得ができたと考ええる。 ③授業の質評価では、"テストの評価基準の明確さ4.5"、"課題の明確さ4.5"、"説明の理解しやすさ4.5"、"質問を受ける機会を設けていた4.1"であった。 ④学習量の評価をみると1回30分の復習を4～5回以上した学生が56.9%、課題以外に学習に取り組んだ学生が64.7%であった。 以上の結果はより、①において小テストの得点率が高いことから、8回の講義中6回の小テストを行ったことで、ほぼ毎回の復習が必要となり、その結果小テストのための学習はおこなえていたと考えられる。しかし、試験の結果は、小テストと難易度は変わらないにも関わらず、小テストに比べ得点率が低いことから、知識の定着にいたっていないことも考えられる。学生からは、「わからないところをノートにまとめた」、「動画などを見て理解を深めた」「国家試験の過去問をといた」などの意見がある一方、「復習してない」と回答している学生もあり、学習を主体的に取り組む学生と、取り組んでいない学生の学習量に差が出ていると考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、看護の実践の応用のために必要な知識を養う科目として、学生の自己評価からも2年次で学ぶ内容としては妥当であるとする。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 科目内容は、小児看護の基盤となる科目であり、必修科目、資格取得のために必要である科目と考える。学生からは「知識を確認、修正し、新たに得ることができた」「小児看護に興味をもった」などの意見があり、講義内容は妥当であったと考える。 ③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容も妥当であるとする。しかし、知識の定着に至っていないことも考えられるため、講義内容の見直しや、時間配分の検討をする必要があると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①講義内容は教科書と毎回の学生の学び票を参考に、学生が理解しやすい言葉を選んだり、言葉の説明だけではわからないところは、動画やイラストなど視覚的に理解できるように工夫した結果、学生から「理解しやすかった」などの意見や試験などの結果からも授業の進め方は概ね妥当だったと考える。 ②学生からは「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」4.0、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、学生が参加する機会が作られていた」4.1と学生が講義に参加できるよう、昨年度に比べ質問する機会などを増やした。しかし、8回の講義の中で、学修範囲も広いため十分な時間を得ることが出来ない。感想票や質問票などを活用し、概論科目であっても学生が講義に参加している意識を維持できるよう工夫した。今後も学生の質問票などに対応し、学生自身が主体的に授業に学んでいる実感が持てるよう工夫していく。 ③試験については、知識の理解と定着のためには、繰り返し復習できるよう、小テストの点数配分を減らしたり、小テストのタイミングや範囲を工した。しかし、小テスト平均点は22/30点（得点率73.3%）であり、試験は47.4/60点（得点率79%）であった。本科目は、小児看護学の基本となる知識習得を目的としているため、今後の科目においても知識が定着できるよう科目間で反復して教授していく方法も取り入れていきたいと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目を運営する中で、知識を提供することが中心となっていた。学生の理解は概ね目標達成できていた。今後は、学生の発表や発言、質問などをする時間や機会を設け、学生参加型の講義形式をとり入れていくことが課題である。また、試験方法なども検討し、1科目だけではなく関連科目でも学生が繰り返し復習し、知識の定着につながる様な学習形態を考えていくことも課題である。

学科	看護学科
氏名	樋口 由貴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
小児看護学演習	3	前期	必修	いいえ	84

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機から見ると「必修科目である」が100%、必修科目であることを理由に受講しており、また、「関心のある内容である」学生は6.0%であった。小児看護学概論や小児看護方法論を通し、関心をもつ学生も少なくない状況ではあるが、子どもと接する経験が少ない学生や小児看護現場をイメージできない学生もいることから、子どもや小児病棟をイメージできるように動画や事例を用いることで、学生の興味をひくように工夫した。まず、興味関心を持ち、この目の前の子どもと家族にどう看護しようかという意欲が持てるようにした。これまでの知識を活用し、事例の患児・家族に看護介入する方法を思考するよう、援助方法の実際などについても具体的に説明した。学生が苦手とするアセスメントについても、事前課題として、講義前までに自己で調べ考えてから講義に参加すること、講義内で一例を示しながら理解できるように講義を組み立てた。また、今年度は、対面での演習が可能であったことから、アセスメントまでは個人学習、看護計画立案をグループワークとすることで、看護計画立案を通して、小児看護を理解できるよう講義を組み立てた。 ②担当教員3名で、講義前後に講義の内容・指導方法について詳細な打ち合わせをした。また、学生への指導内容については、教員間で統一をはかった。 ③学生の看護技術習得を目的として、教員だけで指導するのではなく、すでに技術の習得をしている4年生にも技術演習に参加してもらうことで、質問しやすい環境をつくり、個人のスキル向上ができる指導体制をとった。また、グループワークや発表なども、全学生が積極的に発言し、自分以外のグループの学びや考えを主体的に捉えることができるようにジグソー法を取り入れた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は71.7点であり、標準的レベル(70点以上)に達した学生は75.0%、そのうち理想的レベル(80点以上)に達した学生は29.7%だった。再試験対象者は3名で2名が合格となった。試験の平均点は17/20点（得点率85%）、小テスト7/10点（得点率70%）、レポート38/50（得点率76%）、発表14/20点（得点率70%）であった。DP別の成績は、知識理解の平均点は11/15点（得点率7.3.3%）、思考・判断の平均点は27.4/35（得点率78.2%）、態度の平均点は36.9/50点（得点率73.8%）であった。 ②学生の到達度自己評価の平均値は4.0、"知識を確認・修正・新たに得ることができた4.3"、"専門分野の課題を検討する力を得ることができた4.2"、"専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた4.1"、"コミュニケーション力や表現力を高めることができた4.2"であった。 ③授業の質評価は、"レポートなどの評価基準の明確さ4.1"、"学習の範囲や課題の明確さ4.2"、"話し合う、発表するなどの機会があった4.5"、"学生の質問を受け付け答える機会があった4.3"だった。 ④学習量の評価は、1回30分の予習・復習を3～6回以上した学生が57.1%、課題以外に学習に取り組んだ学生が35.4%であった。一方で、1回30分の予習・復習を0～1回とした学生が27.0%であった。 ⑤図書館利用率は51.0%、学術データベース利用率は32.6%、インターネットなどの利用率は61.2%だった。 以上の結果より、概ね標準的レベルに達しており、自己評価からも専門分野についての学習意欲につながっていると考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 看護の実践の応用科目であり、小児看護の現場で活用できる知識・判断・態度を養うことを目的としている。関心をもって受講した学生は6.0%であったが、「学びを深めたい」とした学生の平均値は4.1であったことから、講義内容は、小児看護を実践する事に意欲が持て、科目の位置づけとしては妥当であると考える。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 評価点、DP別学習達成度（知識理解、意欲関心、態度）及び学生の到達度自己評価などから、科目内容は妥当であると考え。しかし、予習を3～6回以上行った学生は57.1%であり、1回30分の復習を0～1回とした学生が27.0%であった結果から、講義に合わせ、課題や小テストを予習・復習の機会としたが、十分に伝わっていないと考える。また、学生から「課題で精一杯」「他の科目で時間がない」などの意見もあるため、他の科目とも調整し、学生が十分な時間を用いて思考できるよう課題提出時期や課題の量を検討する必要がある。 以上より本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考え。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学生個々の理解度を図るために看護過程におけるアセスメントする部分の学習は個別学習とし、レポートを提出し、個別に指導した。また、小児看護の方向性を講義することで、概ね学生は理解することができたと考える。看護計画については、グループワークを用いることで、理解を深めていくことに繋がったように考える。しかし、行動目標の知識・理解の得点率73.3%、態度の得点率は73.8%と標準的レベルにとどまっており、理想的レベルにするためには、発表の機会を多く作る等の学生参加型の演習の工夫をし理解したことを表現することで、知識・技術の習得が行えるようにすることが必要であると考える。また、他領域の課題提出時期や課題量なども考慮し、学生が十分思考できる体制を考える必要があると考える。 ②図書館の利用は51.0%であり、学術データベースなどを用いていたが、例年インターネット利用率が上昇し、図書館の利用率などは減少している。インターネットによる学術情報を入手している学生もいるが、インターネット情報の収集の仕方なども教授する必要があると考える。 ③試験に関しては、レポートのみでなく、試験や小テストでの学生個々の理解を確認することは妥当であったと考える。今後も、看護の実践につながる思考・判断・態度を考慮した学習方法と評価方法を考えていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	看護実践の応用をするために、知識、思考・判断、態度を学ぶ目標は概ね達成できたと考え。学生に小児看護に興味を持ち学びを深めたいという意欲も高めることができたと考え。今年度より、母性看護学演習終了後に開始する科目として、母性看護学演習での事例と連動した内容としたが、特に学生の理解度などには影響はなかった。他領域との事例を連動させ、「人」そして「家族」「地域」を対象とした看護を理解できるような事例や講義内容の工夫をしていきたいと考える。 限られた人数の教員で、学生個々の知識・技術の習得を促すためには、今後も学習形態などの工夫が必要である。今回、グループ発表をジグソー法で行った。各学生が主体的に発表会に参加し、意見交換などを行っていたため、発表会以外でもジグソー法を取り入れるなど、学生個々が主体的に学べる工夫をしていきたい。 今後も学生が看護の実践に興味がもてるよう、刺激し、意欲的に学習できるように促す具体的取り組みを検討する必要がある。

学科	看護学科
氏名	杉浦 絹子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
母性看護学概論	2	前期	必修	いいえ	88

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は2年生前期の開講科目で、看護師国家試験受験資格取得に必要な必修科目である。到達度自己評価項目の中央値は全て4.0であった。平均値については「自分なりの目標達成」と「技術修得」3.9点と「コミュニケーション力」3.7点の3項目以外は全て4.0以上であった。授業の質評価については、「授業中に自分の意見をまとめる。話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」3.5点以外の4項目は4.0以上であった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	平均得点は79.0±9.0点（最低60点、最高92点）、評定S 5.8%（5名）、A 45.3%（39名）、B 39.5%（34名）、C 9.3%（8名）であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	母性看護の主要な概念を中核に据え、母性看護の目的を多角的な視点で捉え、理解を深められるよう、臨床事例の動画等の視聴覚教材を適宜用いて授業を展開した。自由記述には、「動画で、より具体的に妊娠に悩む人々の思いを知ることができました。」という記述がみられ、動画教材を取り入れることは有効であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生からの改善意見はなかった。学習量の評価について、58.6%が「授業に参加するために1回30分程度以上の準備」を1回も行なわなかったと回答し、61.0%が「授業を振り返るために1回30分程度以上の復習」を1回も行なわなかった」と回答した。その理由（自由記述）は、「授業で理解できた」10件、「他の科目の課題で忙しかった/時間がなかった」10件、「何をすればよいかわからなかった」4件他であった。次年度は毎回の授業の冒頭で前回の授業の復習テスト等、単位の実質化を図るための課題を設定する。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本年度は動画教材を視聴した後スマホを使ってオンラインホワイトボードMiro上に意見・感想を記入する時間を設け、それを教員が読み上げる形で意見・感想等の共有をしたが、周囲の学生と対面で意見交換し発表してもらおうという昨年度の方法の方が満足度が高かったと思われる。出席票を兼ねたミニッツペーパーを提出してもらい、そこに記された質問については、次回の授業の冒頭で全員に向けて回答した。しかしMiroとミニッツペーパーの内容が同じ学生も多くおり、二度手間を強いていたと捉えられるため、次年度は対面の意見交換の時間を設けることとする。 1単位の講義科目であり、前期前半8回すべてを講義で構成したが、自由記述には定期試験を最終回にすることへの要望がみられたこと、および自己学習を促す観点からも、次年度は8回目を定期試験に設定することとする。

学科	看護学科
氏名	前田 幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
母性看護学演習	3	前期	必修	いいえ	85

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は学科の専門教育科目である。母性看護学方法論に引き続き、母性看護学実習に必要な看護過程や看護学技術の方法を習得することを意図した授業展開を行っている。受講動機をみると「必須科目である」100%、「資格に必要である」28%、「関心のある内容である」14%、「単位数を確保する」6%、「教員に勧められた」2%であった。本科目は必須科目とするとともに資格取得に必要な科目である。 ②看護過程と看護技術の演習を中心に授業を展開した。看護過程については、ウェルネス看護診断を用いた看護過程の方法を解説し、事例を用いて看護過程の展開（情報収集から全体像の作成、看護診断・看護目標・看護計画の立案）を行った。学生の理解を図るために、小グループに分け、各グループに担当教員を配置し、質問などをしやすい環境を整えた。教員は看護過程について添削を行い、個別に指導するなど工夫をした。また、グーグルフォームを使用し質問をしやすい環境を整えた。看護技術においては、母性看護における基本的な看護技術を習得できるように事前に看護技術の動画で予習できるようにした。実際の演習では少人数で各ブースを回れるように工夫した。また、技術テストを行う際に練習時間を設けたり、いつでも技術を確認できるようにクラスルーム動画を掲載するなどして工夫した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された		やや達成されなかった	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は81.2（±7.61）であり、再試験対象者は数名であった。昨年より3.7ポイント上昇している。DP別にみると、知識理解に関しては81.65%、思考判断に関しては87.29%、態度に関しては45.07%の達成度であり、昨年とほぼ同じ成績であり、概ね目標は達成されたと考える。 学生による授業評価の到達度自己評価においては、10項目の平均値3.3～3.8（点）、中央値は3.5～4.0（点）であり、昨年度より低いポイントであるが、概ね肯定的な評価であった。「自分なりの目標を達成した」という項目に置いての平均値は3.6（点）であった。学生の意見として、「他の課題で忙しかった」という意見が多数あり、この科目が開講される時期は、他の領域と課題が重なるため、出来るだけ学生の負担を少なくするように工夫している。その中で、学生自身は本科目において自分なりの目標を達成できているかについては個人差があると考ええる。今後も学生が、知識理解を身につけ、思考判断を行い、演習に取り組めるよう関わっていく必要がある。全体的な評価として、学生は概ね意欲的に学修に取り組み目標を達成できたのではないかと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「看護実践の応用・展開」に属し、母性看護領域における対象者に必要なケアを提供する知識と判断、態度を身につけることが必要とされる。学生の学習到達度の自己評価の項目では、平均値3.3～3.8（点）であり、一定の成績をおさめていることから、内容的には妥当であったと考える。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 受講動機は、「必須科目である」100%、「資格に必要である」28%、「関心のある内容である」14%、「単位数を確保する」6%、「教員に勧められた」2%であった。またDPにおいて、態度以外はほぼ標準レベルに達していた。態度に関しては、昨年よりかなり低いポイントであった。学生の意見として、「他の課題で忙しかった」という意見が多数あり、この科目が開講される時期は他の領域と課題が重なる。その中でこの科目に全員が十分に取り組むことができていたかは疑問が残る。そのため、来年度は学生が集中して演習に取り組めるようにより一層支援していく。 以上から、内容は妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目は「看護実践の応用・展開」に属し、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、授業内で教員サポートのもと、演習課題に取り組めるように工夫した。「授業の質の評価」では、5つの項目すべてにおいて、平均値3.3～4.0（点）、中央値3.0～4.0（点）の評価であった。成績においても、標準レベルに達している状況をふまえ授業の進め方は妥当であったと考える。また、学生の個別的な意見にもあるように、看護過程においては個別対応を行ったこと、質問などをしやすい環境を整えたこと、看護技術においては動画などを用いたことは効果的であったと考える。今後も学生個々の理解度なども確認したうえで母性看護に必要な知識・思考判断・態度を習得できるように工夫していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は「看護実践の応用・展開」に属しており、授業評価アンケートの到達度自己評価においては、10項目の平均値3.3～4.0（点）、中央値はすべて3.0～4.0（点）であり、「自分なりの目標を達成した」という項目に置いての平均値は3.6（点）、中央値3.5（点）であり、学生自身は自分なりの目標を概ね達成できていると考える。成績においても教育目標は達成できている。今後も学生の意見を取り入れながら、総合的な力が向上できるよう授業内容を検討していきたい。

学科	看護学科
氏名	原 頼子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
成人看護学概論	2	前期	必修	いいえ	87

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は看護形態機能学、疾病論、薬理学、臨床栄養学、感染と免疫、看護に生かす臨床検査、ヘルスアセスメント、看護技術、看護過程、倫理学等の知識を基に、成人急性期看護・慢性期看護方法論に繋げる科目である。成人期における発達課題、身体的・精神的、社会的特徴を学び、保健・医療・福祉システムの知識を持ち、健康障害の特徴を理解し、看護を考える導入となる科目である。 ②成人看護学概論は、成人急性期・慢性期看護方法論につながる大事な科目であるため、成人の身体的・心理的・社会的特徴をもとに、病態・治療を理解し看護につなげるための思考過程を作ること、知識を定着させ、アセスメントができ、問題を解決していくための思考過程、問題点を解決するための実施方法を考えられるように講義を組み立てた。 ③第1回目、この科目の位置づけと、個性性を捉えることの重要性、目指すべき看護の方向性についてオリエンテーションを行ったが、学生は事前にシラバスの記載を見ていないものが半数以上おり、シラバスに沿って授業計画を立てないものが半数以上いたことが分かったため、次年度から、1コマ目のオリエンテーションの意味、次につながるために必要な知識であること、科目の位置づけを自分でも考えて受講してほしいことをきちんと伝え、学生の目的意識を明確にすることが必要である。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①86名が履修を行い、総合評価の平均値は、71.1点（SD9.8）で、昨年72.8点とほぼ同じであった。知識理解に関しては、67.9％、思考判断に関しては、75.4％、意欲関心、96.1％で、全体として達成率79.8％であった。再試対象の11人（1人は放棄）中8人は合格し、標準的レベルに達したと考える。 ②成人看護学方法論の導入科目としての知識理解の位置づけが大きい割に知識理解に関する達成度は67.9％であったことから、次年度は、具体的にオリエンテーションを行い、予習・復習の大切さを伝え、効果的に学習してもらう必要があると考える。 ③意欲関心は高く、授業の質評価の「（4）「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発言する、学生が参加する機会がつくられていた」の平均値は4.1点で、中央値より高かったことは授業の狙いである、協働的に学び合うという教育方法が伝わったのではないかと考えるため、次年度も学生同士の意見交換の機会をもっと入れていきたいと考える。 ④図書館の利用46.3％、インターネット検索の利用61％であり、「到達度自己評価」の「（3）事象を理解する視点や考え方を得ることができた」は3.9点、「（6）自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた」3.9点と中央値に近い数値の評価につながり、こちらの意図するところは感じてもらえたと考ええる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容妥当性 本科目は、「専門教育科目」であり、老年看護学、小児看護学等と併存して講義が行われる。内容の重複部分と専門性を発揮する部分とのすり合わせが必要であるが、今後の検討が必要である。 ②DP、行動目標から見ての内容妥当性 成績評価から、知識理解の得点が低いことは、成人看護学急性期・慢性期看護方法論の導入科目としてアセスメントを行うときに知識不足が影響することが考えられるため、看護形態機能学で学んだ身体の構造や、疾病論で習得した知識を想起させることで、忘れていることがあれば再度学習することを意識づけることが重要である。 ③まとめ 1年時からの積み重ねが、看護の知識につながることを説明すること、カリキュラムツリーを指し示し、科目の位置づけの意味や、現在までの学びをフィードバックしながら、今後の達成に向けて重要なこと、学ぶべき視点を指し示すことが学生のモチベーションにもつながり、内容妥当性の根拠にもつながると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①資料の文字が見にくかったという意見があったが、印刷時にパワーポイントの資料を白黒印刷したために文字が見えにくくなったということがあり、資料作成の工夫が必要である。大切な部分が分からなかったということに対しては、カラー印刷を取り入れることで、視覚から伝えることもできることと、記憶として残るだけではなく、知識として残るようになぜ大切なか根拠をしっかりと伝えていくことが必要と考える。 ②「成人期にある人の健康と課題」を個人で色々な資料を用いて調べ、グループで発表し合ったことは成人の健康について考える機会となり、健康の段階毎に必要な看護、個別性のある看護を考える基盤になったと考える。 ③協働的に学び合うという教育方法を取り入れており、授業の質評価において「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発言する、学生が参加する機会がつけられていた」と評価してもらったことから、次年度も学生同士の意見交換の機会を多くし、自分でしっかり考えることの重要性を伝えていく。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は評価点、学習到達度評価、質評価から概ね達成できたが、学習量の評価からみると、予習・復習の時間が少なかったり、課題以外の取り組みが少なかったことが分かった。そこで、知識を持つことの重要性と、看護の個性性を考えるために、知識の質向上に向けた学習方法を身につけてもらうことが重要であると考え。ただ、授業評価の実施者が41名であったことから、もっと回答数を増やし、受講者全体の評価として検討いくことが次年度の課題である。 知識を蓄積し、看護に生かすためには、既存の知識を享受する方法ではなかなか学習効果が見えづらく、蓄積された内容の確認が難しいため、アクティブラーニングを用いて、学生が自ら必要と考えることを自分に合った方法で能動的に身につけることを取り入れたいと考える。学生が経験したことを生かし、思考過程を踏み、行ったり、来たりして考えてもらうことが重要である。知識が増えることの楽しさに気づいてもらい、効果的な学習法を身につけることで、演習・実習科目にも生かせるように、わかりやすい教育を実践していけるように日々研鑽することが課題である。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	看護学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
成人看護学演習	3～4	後期・前期	必修	いいえ	85

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①成人看護学演習は、2単位（30コマ）で既習の形態機能学、疾病学、看護過程論、成人看護学方法論などで学修した知識、根拠をもとに慢性期、急性期における看護過程および看護技術を修得し、3年次後期の実習にて実践するための科目である。 ②講義・演習を組み合わせ1回2コマで実施し、15回で組み立てを行った。 ③受講生85名を1グループ4名～5名、20グループを講師以上4名と助手4名がペアとなり、1ペア(講師以上1名+助手1名)が5グループの指導を行った。 ④看護過程のグループ評価、技術の個人評価および小テストにて看護過程の理解を確認した。小テストでは、慢性期事例終了後と急性期事例終了後の2回実施し、知識・思考判断の確認を行った。 ⑤反転授業を行った。講義までに個人ワークで授業進行に合わせた課題に取り組み、グループワークでのディスカッションにて疑問の解決を行った。また、個人ファイルの提出を求め、個人の成長を促した。 ⑥技術に関しては、4年生が模擬患者を演じてリアル感を持たせるように工夫を行った。 ⑦回答した学生24名と少なく、学生の受講動機は必修科目であるが100%、次いで資格取得に必要な13%であり、「関心のある内容である」は4%であった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①85名が履修を行い、総合評価の平均値は77.3点（SD7.1）で昨年度71.3点（SD8.2）に比べて高くなっていた（最高点91点、最低点55点）。本試験で不可1名は、再試験にて合格とした。結果、72人（84.7％：昨年度83.0％）の学生が標準的レベル（70点以上）に達しており、そのうち理想的レベル（80点以上）に達した学生は29人34.1％（昨年度13.2％）だった。 ②DP観点別の成績は、DP1-2（知識・理解）は、10点中6.2点（得点率61.7％：昨年度69.3％）、DP2-1は、68点中51.5点（得点率70.6％：昨年度67.9点）、DP3-1および3-2は、10点中8.7点（得点率87.1％）、DP4-1は、7点中6.5点（得点率92.9％）、DP4-2は、5点中4.4点（得点率88.9％）であった。 ③授業評価アンケート回答者数が24人と少ない（回答率28.2％）。到達度自己評価の平均値は、3.9（4.0-3.8）で、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「専門分野のさまざまな課題を検討する力」「判断する力」「学びを深めたいと意欲をもつことができた」「職業倫理」「職業選択の参考」が4.0であった。 ④授業の質評価の平均値は、4.0（4.1-3.8）で、「評価基準は明らかであった」「期間内に行うべき学習の範囲」や「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」が4.1であった。 ⑤学生の学習量評価は、1回30分以上の予習・復習をした学生が、62.5％（昨年度80.6％）で、7～10回以上した学生が、41.6・45.8％（昨年度56.6％・45.2％）であった。課題以外の学習に取り組んだ学生は、25％と昨年度と同等であり、自由記載で「課題で精一杯だった」「課題を頑張った」と回答していた。 ⑥図書館等の利用では、図書館の図書、雑誌を利用した割合は、54.2、データベース37.5％、インターネットやホームページを検索は66.7％であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は既習の形態機能学、疾病学、看護過程論、成人看護学方法論などで学修した知識、根拠をもとに慢性期、急性期における看護過程および技術を修得し、3年次後期実習にて実践するための科目である。総合評価から考え科目の位置づけとして内容は妥当であるとする。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 評価点、観点別学習達成度（知識理解、意欲関心、態度、技能表現）及び学生の到達度自己評価などから、知識理解、思考判断に関する達成度がやや低かった。ただし、1例目の看護過程の展開よりも2例目の方が理解できており学生の成長が見られた。また、標準的なレベルおよび理想的なレベルの学生が昨年よりも増えていることから、科目内容は妥当であるとする。 ③まとめ 以上より本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学習達成度、到達度自己評価、授業の質評価の結果は良好で、後期実習に向けた学修の修得につながったと考える。 ②反転授業を実施しており、課題を個人ワークで行い、グループワークで理解を深めるようにした。課題に対するコメントをチェック表にして返却を行ったが一部の学生が「チェック表にそって書く作業のよう」に感じる学生がいたようである。チェック表の内容については講義内で説明を行っているが方法を検討していきたい。 ③小テストは、グループワークでは見えにくい個人の理解度の把握とフォローアップを行うことに繋がった。ただし、小テストの日程についてABグループに分けて実施しているため、1週間のずれが生じ不公平との意見があった。今後は平等となるように定期試験での実施を検討したい。 ④看護過程の小テストおよびグループワーク、看護技術の総合点で評価を行っている。昨年度の反省を活かし、点数配分を看護過程の理解に重きをおいた。そのため、昨年度に比べDPの修得率に変動がみられたと考えられるが、DP1-2の得点率が低いのは看過できない。方法を検討したい。 ⑤昨年度より時間外の練習時間を設け、技術チェックを行っている。主体的に練習に取り組む姿勢がみられた。 ⑥3年前期は全ての領域における看護過程が同時開催される。学習量の評価では、「授業で理解できたから」「授業内容で十分だった」という意見がきかれた。本科目は反転授業を行っており、毎回課題があるが丁寧な解説を行っていることから課題量としては妥当と考えられる。 ⑦「看護過程論」でデータベースアセスメントを学んでいないことを把握しておらず、事前課題としていた。講義内でフォローをしたが、今後は「看護過程論」の情報を得ていくとともに事前課題の説明の際にデータベースアセスメントについてテキストを示し説明を加えたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は上記に記載した評価点、観点別学習達成度（知識理解、意欲関心、態度）及び学生の到達度自己評価などからみて、この科目の目標は達成できたと思われる。今後は、3年後期の成人慢性期看護学実習および成人急性期看護学実習で、いかに本講義・演習での学びを活かすことができているか、学生の修学の確認をしていくとともに、事例、技術演習の内容等について検討を行っていきたい。 例年、演習課題が多いという指摘があるため、演習課題を見直し、2年後期の「成人急性期看護方法論」にて課題を分散した。その結果、課題以外については「授業で理解できたから」「授業内容で十分だった」という意見が聞かれた。今後も「看護方法論」において本演習を意識した課題や講義内容を検討していきたい。 また、自由記載に「提出ファイルの盗撮をした人がいるという噂を聞いた」という記載がみられた。今回は研究室前に提出としていたが、今後は助教室に提出など対応を考えたい。また、講義オリエンテーション時に注意喚起を行っていきたい。

学科	看護学科
氏名	溝部 昌子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
老年看護学概論	2	前期	必修	いいえ	87

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①高齢者を客観的なデータや事実から認識することと、主体的に生きる人としての存在を理解しようとする態度を修得することが望まれる科目であり、興味関心と知識を組み合わせながら、各単元の学修課題を到達できるよう、講義で例示する人物、書籍、論文、資料を工夫した。テレビ番組のキャプチャ画像や情報誌などから、イメージしやすいものを活用した。 ②加齢性の身体変化については、形態機能学で用いた教科書の該当ページを示し、復習として説明した。 ③加齢性の身体変化の理解を助けるため、3年次の演習で実施していた高齢者体験装具を装着しての体力テストを2年次に移動し、構内の坂道や出入り口の段差、トイレや食堂を巡るなど生活動作を中心に体験した。祖父母の家の危険度マップ作りとあわせて、高齢者の生活に潜む危険を効果的に学ぶことにつながったと考える。 ④高齢者看護を単なるイメージではなく、継続的に学修が必要な医科学・看護科学・社会学・法律や制度・倫理などを駆使する集学的な分野であることを理解できるよう発展的な内容を少し含めることで、抵抗なく関心を高められるよう工夫した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された		達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①この科目の評価は、小テスト2回、レポート3回と定期試験の合計で、平均88.4点、中央値91点、秀52人、優25人、良8人、不可1名となった。すべての課題に対する取り組みがよく、高齢者看護の基盤となる知識や態度の修得につながったと考える。 ②授業評価では、4.0～4.3の評点であり、学修の効果の実感があったのだろうと思われるが、回答者が27名であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①毎時同じ紙に振り返りを記入して提出、確認後返却しているが、そこで書かれている学びや気づきの記録は瑞々しく、大いに参考になっている。単元で説明したことを学生が自分なりの解釈を加えたり、自分に引き寄せて理解し、看護に役立てようとする事柄が書かれており、学びの効果を判断できている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①単元の整理や、学年や科目間の構成を調整するなどこれまで行ってきたが、今年度の内容と構成で、老年看護学教育が効果的かつ効率的に行えるようだと感じている。 ②地域生活支援や、地域包括ケアなど、一般高齢者に対する理解は別の科目に移し、高齢者の心身の健康障害や看護、新しい看護技術を紹介するなど務める。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①高齢者体験装具を用いた体験には、装具の着脱や完全管理のため、他領域の教員の応援を2名頂いた。前後で装具の管理などやや大掛かりとなったが、1コマで構内歩行や簡易体力測定を実施できたので、効率よく体験的に学べる機会を創れたことは今年度のチャレンジが成功した。 ②機会があれば、VRなどの体験ができればよいと思うが、老年教員は仮に充足していたとしても、教授・助教・助手であり、新たな教材開発が困難な人材配置なので、他領域、他の科目で検討して欲しい。

学科	看護学科
氏名	溝部 昌子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
老年看護学演習	3	前期	必修	いいえ	84

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①老年看護学概論及び方法論で学んだ知識を統合し、老年看護学実習での準備性を高めることを目的として、高齢者特有の看護問題を含む事例を検討し、毎年調整している。 ②看護過程におけるアセスメントでは、当該パターンで分析すべき情報や観点を予め説明し、学生が自身で演習しやすいようにした。 ③簡潔なアセスメントと要点の記載を目標として、看護過程の記録を手書きとしたが、こちらの意図とは異なって学生自身は他の領域でのアセスメントの方法で記載するため、大量の記録を手書きで提出することになり、PC作成の意見が多かった。 ④アセスメントの視点・評価の観点を示し、採点結果を示しているが、学生は他の領域で作成しているアセスメントの内容や方向性に沿って作成している人が多かった。こちらの意図が伝わり、要領を得て簡潔に記載しつつも評価点がよかった人は少なかった。 ⑤老年看護学実習で、タクティールケアを実施するグループが複数あったため、演習項目として講義内実施した ⑥高齢者看護技術として、車いすでのトイレ移乗、排泄ケアのための腹部エコー、前腕皮静脈マッピングを実施した。エコーを演習に導入したのは今年度初めてであったが、エコーメーカーの協力、4年生ゼミ生の協力があり、効率よく効果的に演習できた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された		やや達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①この科目の評価は、12回の課題提出と態度点からなり、最終的には平均79.6点、中央値80.5、秀16人、優29人、良25人、可9人、不可5名となった。 ②取り組みがよく、常によく評価された秀16名に対し、不可となった5名はそれぞれの取り組みで評価点が低く、途中で指導を行ったが、最終的に改善することができなかった。 ③不可の学生に対しては、再度レポートを課し、夏休み期間中に教員と共に振り返り、個別に指導した。前期での理解が十分でなかったが、事例や病態について理解できるようになったと学生が話しており、最終的には実習に臨める状態となったと考える。 ④授業評価では、3.7～4.0と評価されており、課題の難しさ、手書きの大変さなどから評価は低くなっているものと思われる。回答者が27人で判断しづらいが、もっと楽しくて楽ちんな学習方法にすべきかとも思う。 ⑤12回の課題について教員がルーブリック評価しフィードバックしているが、この負担を考えると効果的効率的な方法に変更したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①老年看護学の知識を統合し、老年看護学実習の準備性を高めることを目的としているが、事例の設定が複雑になると、幅広い疾患や治療・看護方法についての学修ができなくなるため、もう少し単純な事例で、スピーディーに看護過程を展開できるようにする必要がある。 ②手書きに対する抵抗が強く、PCでないと看護過程が展開できないのも本末転倒であるから、看護過程や臨床推論が頭の中で展開でき、それを速やかに言語化できる訓練が不足していると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①幅広い疾患や治療をテンポよく学習し、まとめていく力をつけるために、複雑な事例ではなく、教科書をベースにした事例展開を取り入れていきたい。 ②エコーを用いた排泄ケアの演習や、前腕静脈マッピングは学部教育では比較的先駆的な取り組みであり、学生の感想にも有意義であったとの記載が多かったことから、なんらか教育実績として残すべきであろうと思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①老年看護の基礎知識としての加齢性の心身変化や、加齢性の疾患に伴う病態の関連などは、知識として定着していることは、臨地実習で改めて指導をする必要がないことから確認できている。 ②老年看護学実習で出遭う患者の病態や治療・看護について授業で網羅的に紹介できている考えるが、さらに循環器疾患や脳梗塞後遺障害など高齢者特有の病態とその看護についても学べるよう内容を構成したい。

学科	看護学科
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神看護学演習	3	前期	必修	いいえ	86

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は、後期からの精神看護学実習に直接かかわる科目である。学生が実習をイメージしやすいように事例を多く取り入れ、参加型の授業が展開できるようにした。具体的にはグループ毎の発表を多く取り入れ、発表後にディスカッションし、活発に意見交換ができるようにした。受講動機は、100%が必修科目であるためであり、後期からの実習を控え、学生はそれなりの覚悟で臨んでいると思われる。 ②精神疾患と看護の関連や、患者の全体像を総合的に理解できることを目的に精神に障がいをもつ人の援助に適切とされるオレム・アンダーウッドの理論を用い、グループで統合失調症の事例展開を行った。また、作年度に引き続きストレングス理論を取り入れた。精神症状のアセスメントは苦手であるため、昨年度より時間を多くとって説明した。 ③学生の柔軟な発想を引き出すためにグループワーク中は机間巡視を助教・助手2名と共にに行い、精神看護の個別性について熟考させた。精神疾患の特性からどのような観察やケアが必要になるのか、精神科看護のポイントを事例に沿って解説資料を作成し、学生の理解を助けた。 ④配布資料は、実習時に活用しやすいようにファイル化させた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		やや達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は76.3点であり、再試対象は3名であった。78名(90.7%)が標準的レベルに達した。理想的レベル（概ね80点以上を目標）に達したものは43名（46）%であり、50%近い学生がこのレベルに達した。成績の内訳は、A（秀）3%、B（優）が43%、C（良）が41%、D（可）が9%であった。精神疾患も持つ人の看護の展開、主に統合失調症の事例が中心であったため、イメージがしづらく、これまでの知識を思考判断に応用することが難しいところもあったようである。また、問題解決思考にとらわれない考え方は他の身体領域とは違うため戸惑うことも多かったようである。精神疾患の病態の理解を深めるとともに、精神疾患を持つ人の生活上の支援が想像できるように、次年度に向けて検討を重ねたい。 学習到達度の自己評価の平均は4.04であり、「かなりそうだと思う」が35%、「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」が62.5%を占めていた。授業への準備状況として、予習の時間0回が40(昨年22.2) %、復習の時間0回が38（前年18）%となっており、前年より学習時間が減少している。課題が忙しかった、課題以外の学習する時間がなかったという意見はあるが、提出率はほぼ100%であったので、授業時間以外の学習はできていたと思われる。図書館の利用は32%（昨年67%）で減少している。データベースの検索も28%と少ないため、もっと図書館の活用ができるような内容の工夫をしたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門科目」であり、必修科目である。2年生後期の専門知識と、3年後期からの臨地実習をつなぐ要の位置にある。本科目の単位習得は、臨地実習に参加できる要件になっているため、学生はまじめに取り組んでいる。臨地実習を意識した授業になるため、課題はやや多いが学生も応えており、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 提出物の内容や、発表に内容を省みると学生は積極的に授業に参加していた。本科目の性質上、理解しづらいところは否めないが、グループワークで進めたことで、学生一人一人はよく学習し理解は進んだと思われることから、内容的には妥当であったとする。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、平均は4.3であり、「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」が70.5%、「まあまあそうだと思う」が27%を占めていた。精神疾患の事例を取り上げて看護過程を展開している。疾患の理解が難しいため資料の工夫等を重ねているが、今年度は理解は良かったと思われる。課題が多いという意見は、他の科目の課題もまとめて多いという意見であり、特に精神看護学演習が多いということではない。学生の意見として「とても楽しい授業で、また受けたいと思えた」というものもあり、さらにわかりやすい授業をしていきたい。すべての項目の平均点は、4.3であった。グループワーク中心の演習であり、発表の機会を多く取り入れ、全体のディスカッションができ、参加型の授業ができたことは良かった。今年度は、クライシスプランを取り入れペアワークを行ったが理解しやすかったようである。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、2年生後期の専門知識と、3年後期からの臨地実習をつなぐ要の位置にある。精神疾患の病態および看護の基礎的知識を確認しつつ、精神科看護の専門応用へとつなげていかななくてはならない。基礎的知識の確認は、課題を課したうえで、授業に参加してもらい、グループワークでフィードバックしながら、看護の思考過程へ進んだ。グループにおける活発な意見交換や、クラス全体での発表会を通じて、思考判断、技能表現については学生の自己評価も高かった。課題の提出率もよく、自己学習が進んでいるように思えた。グループワークが多いと、他の学生に頼り十分な学習ができない学生もいる。今年度は、学生の様子を見て個人ワークを適宜入れ、学生一人一人の理解を図ることにした。次年度も学生の理解の状況を見て内容を検討しながら進めていきたい。「授業が楽しい」と学生が思えるように今後も学生のモチベーションをあげながら楽しめる演習内容にしていきたい。

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
在宅看護学	3	前期	必修	いいえ	86

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生の受講動機を見ると、全員が「必修科目である」をあげている。「関心のある内容である」が0%であった。 学生の多くが核家族で共働きであり、家族のヘルスケア機能の体験が少ない。ニュース等で在宅医療・在宅介護が社会問題であることを知っているものの、各自の興味の範囲の情報でイメージ（解釈）しており、問題そのものを正しく把握していない。関連科目として、社会保障概説、家族看護学、公衆衛生看護学概論、地域生活支援論、地域連携協働支援論、各看護学方法論を、学んできている。しかし、3年生の在宅看護学を学ぶ時には既習の知識はリセットされ、キーワードに聞き覚えがある程度の学生が多い。 近年、医療・介護一体化改革の中で医療改革が進み、在宅医療の役割がますます増えている。在宅看護についても必要性を増しているところであるので、関心を持ち積極的動機を増やすために、1～2年生のころから在宅看護が社会から期待されていることを伝えていきたいと思う。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	評価はレポート、定期テストで行った。最終的な成績は、平均点73.2点（昨年74.2点）であった。成績の内訳は、秀 0名（昨年5名）、優 24名（昨年26名）、良34名（昨年 31名）、可27名（昨年25名）、不可1名（昨年1名）、放棄1名（昨年2名）であった。 定期テストは、今年度初めて「教科書持ち込み」にした。テスト範囲や難易度は昨年度と同じであり教科書持ち込みで点数がアップすることを期待したが、平均点は変わらず、「秀」が0人という結果を受けて、残念に思った。 学生の評価でも、「授業に参加するために1回30分以上の準備をどのくらい行いましたか」および「授業を振り返るために1回30分以上の復習をどのくらい行いましたか」で、約半数が予習・復習を全くしていない。 しかし、3年生の前期は演習科目が多く課題が重なっているため、なるべく強制的な学習を避けているのだが、学生の主体に任せると学習の取り組みや成果に差が出る。自主的な学習に取り組んでもらうためにどのように興味を持たせていくかが私の大きな課題である。					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目はDP1：知識・理解、DP2：思考・判断、DP3：意欲・関心を目標にしている。到達度の自己評価では、すべて学科平均より低くなっている。 在宅看護学は、対象が小児から高齢者とすべてのライフステージである。疾患も多岐にわたっていて、長期の療養をしている人、障害を残している人、ターミナルの人と幅広い。また、看護技術はすべて応用であり、限られた条件の中で工夫することを考えるものである。そのため、明確な答えが存在しない。答えがないものを考えることは面倒であり、さらに回答が不確実で、学生にとって学習成果が見えにくかったと思う。 「看護には答えがたくさんある」という本質をとらえて、不確実なことを面倒がらずに考えるように伝えていきたい。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	3年生の前期は各看護学演習が同時に実施されており、学生はグループワークと看護過程の記録が重なり、提出のめ切が近い科目から手をつける状況である。在宅での看護というのはイメージがつきにくく、最初の動機からポジティブな学生が少ないことは例年ある事である。そのため、科目の目的・目標を共有するのではなく、まずは関心をもって取り組んでもらうため、最初の講義で、神経難病の療養者から西南女学院大学の学生へのメッセージのDVDを見てもらった。しかし、「課題以外に学習に取り組みましたか」では、86%の学生が「していない」と応えている。授業評価では「他の科目が忙しいため学習ができない」と記載されていることは、大変残念に思った。 在宅看護学は、対象や疾患がさまざまであることから、これまで学んだ各看護学の知識をもとに思考し、統合していく科目であり、既習の知識の定着が前提である。在宅看護学は社会の問題と深く関連しており、常に新たな課題が発生することから、現代的課題を紹介していき、身近な問題として自主的な学習に繋がられるように投げかけ続けたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	受講者86名中、授業評価を提出してくれた学生は43名である。 在宅看護学はあらゆる年齢・あらゆる疾患・あらゆる環境を対象とすることから、明確な正解がない。むしろ答えがたくさんあり、どの答えが正しいかはその場ではわからない。しかし、明確な間違いはある。学生は明確な回答がないと不安に思ったり、多くの場合は答えがないことを考えたくないようである。いつも「どう考えたらいいのですか？」という学生の質問に、教員は「あなたは どう思う？」と答えたり、「何を、どこまですればいいのですか？」という学生の質問に、教員は「あなたは どうしたいの？」と答える。そのことで、在宅看護は「答えをもらえない」と憤慨する学生が多い。 答えがないものを面倒がってしまう学生の状況を受け止めつつ、考えることを繰り返し説明したい。また、シラバスを確認し、シラバスに書いている予習・復習をして、講義に臨むように動機づけしていきたい。 一方、学生に在宅ケアの興味を持ってもらう工夫をしていきたい。そして、大学生らしく主体的に自分で学習テーマをもって、図書館等を利用して学習してほしいと願う。 授業では理解できなかったことを、3年後期の在宅看護学実習では現場から学ぶことができる。その時には、定期テストで持ち込みにした教科書が役に立つことを期待している。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
在宅看護学演習	3～4	後期・前期	必修	いいえ	84

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機について、「必修科目である」が100%、「関心のある内容である」が0%（昨年7.6%、一昨年21.7%）であった。年々、関心をもって授業に臨んでくれる人が減り、今年は0%で、授業開始時からマイナス印象だったことがわかった。 在宅看護学・在宅看護学演習は2コマ続きであるため、在宅看護学で理論や考え方を学習し、演習ではその知識を使って思考していく流れを作った。また、①在宅医療や介護についての社会問題を知る ②包括看護計画 ③在宅看護技術（教育技術・提供技術）④臨床推論の4つの柱で15回の授業展開をしていった。授業に興味をもってもらうため、資料で各演習課題の目標を示し、画像を使ったり、教材の工夫をしていたが、学生の受け止めと学習成果は厳しいものであった。課題以外の学習に取り組んでいない理由に、「時間がなかった」「他の科目の課題で一杯であった」と言う意見が多数あり、授業計画なしに受けるという学生の準備性のなさも伺えて、教員の熱意が伝わらなかったことがわかった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	やや達成された	やや達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績は、平均点73.6点（昨年72.7点）であった。成績の内訳は、秀0名（昨年0人）、優 21名（昨年15名）、良 37名（昨年43名）、可26名（昨年56名）、不可(放棄) 1名（昨年1名）であった。 本科目は、グループワークと個人ワークを組み合わせた形式をとるが、科目評価はグループワークの成果物の配点は少なく、個人の成果を主な評価対象としている。配点と基準に関しては、演習のレジュメで項目を示して説明している。しかし、テスト、レポート。「提出物などの評価基準は明らかであった」で、「少しそうではないと思う」が20%あったことは、学生が何をもとめているかきちんと受け止めたいと思う。 在宅看護学演習では、在宅看護の看護過程の特性を理解するために『共通事例による見本』を配布し、まねぶ→まなぶの方向で理解を図った。共通事例を参考に、違う事例の看護展開を各自で思考した。また、内面的動機づけを強めるために口頭試問や臨床推論のチャレンジ要素を取り入れた。しかし、学生の授業評価は、思わしいものではなかった。 看護過程の様式は在宅看護学実習で使う様式と一致しているため、この科目でわからなかったところや理解の積み残しは、実習において実際の療養者の看護展開をすることで完結したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、各看護学領域の知識を統合するもので、DP2：思考・判断、DP3：意欲・関心、DP4：態度、DP5：技能・表現を目標にしている。 ケアプラン・看護過程では、各自が展開できる力をつけるため、グループワークを取り入れながら、課題の提出は個人個人でするようにした。しかし、到達度自己評価では、すべての項目で平均点以下であった。他の看護学領域と違い、看護問題が見えにくく、看護計画も多職種連携のもとで包括的に立案する難しさがある。また、在宅看護学領域には決まった看護技術があるのではなく、個々の対象に応じて試行していかななくてはならない。学生が達成感を得られる返し方の工夫をしていきたい。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	在宅看護過程では、基礎看護で学んだ看護過程を基本に、在宅看護特有の情報やアセスメント、包括計画といった過程をたどる。基礎や成人看護学で学んだゴードンのパターンでない独自のパターンであることから、在宅看護過程の見本として「共通事例」を配布した。見本があることを前提に手順を説明し、授業時間内で質問に応えるべく教員でラウンドしたが、グループワークの進捗が遅く、質問がほとんどなかった。 学生の授業の質評価はすべての項目低かった。自由記載では、教員を名指しで批判する内容もあった。その場で質問や指摘してもらったら授業中に全体に説明することもできるので、気づいたことがあったら教えてほしい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	在宅看護の対象はあらゆる年齢、あらゆる疾患をもつ人と家族であり、看護過程は個性を大切にしたいオリジナルの看護計画を求める。学生は正解がないと不安に思い、「どう書けばいいのですか?」、「何を、どこまですればいいのですか?」と、きれいに仕上げるための書き方にこだわってしまう。学生の質問に、教員は「あなたはこの方に対してあげたいの?」と答え、「在宅看護の教員は質問に答えてくれない」と憤慨する学生が多くいる。答えがないものを面倒がってしまう学生の状況を受け止めつつ、個性を考慮したオリジナルを考えることを繰り返し説明したい。 在宅看護学は、病院内の看護とは違う文化の中で発展しているので必要とする知識や思考過程が違い、学生にとっては得意・不得意、向き・不向きが存在する。しかし、日本の医療改革の方針から、在宅看護学の知識と思考過程は、今後、急性期病院であっても必ず必要なものになる。在宅看護を好き・嫌いで学習の優劣をつけるのではなく、看護職として必要な知識・思考であることを認識して学習してほしいと考える。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	看護学科
氏名	金山 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護キャリア形成論	2	前期	必修	いいえ	86

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	「看護キャリア形成論」は2年次に配置された必修科目である。受講動機は、「必修科目である」が100%であった。 授業の実施にあたり大切にしたことは、学生が将来の目標を考える機会とすることと、主体的な学習である。 入学時に学生は、本学では卒業時に看護師国家試験受験資格を取得でき、選択コースにより、保健師国家試験受験資格や養護教諭第一種免許または高等学校(看護科)教諭免許を取得することが可能であること、また、卒業後は選抜試験により、助産別科に進学し、助産師国家試験受験資格を得ることも可能であることがわかっている。1年次前期の看護学概論では、看護師、保健師、助産師などの看護専門職の定義や役割などを学習し、さらに、大学卒業後の継続教育や認定看護師、専門看護師、認定看護管理者、特定看護師などの資格制度についても学習している。1年次後期は、「キャリア開発」の必修科目を全員が履修し、キャリア形成について知識を学習している。 そこで、2年次前期の「看護キャリア形成論」の科目では、学生がMSRの結果を参考にして自己分析、自己理解を行い、将来どのような職につきたいかを考えるようにする。また、看護専門職である専門看護師の話聞いて、自己の進路や将来を考え、卒業までと卒業後の看護キャリアプラン、ライフプランについて考えるようにレポート課題を準備し、授業を展開した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①評価基準はレポート70%、発表10%、レポート外の提出物20%で評価を行った。成績の平均は82±7.2点であった。 ②授業評価は、受講者86人中、36人の回収であり、回収率は41.8%であった。 「到達度自己評価」では、学生は「自分なりに目標を達成した」という肯定的な回答は100%であった。項目別の評価平均は「知識を確認、修正、新たに得た」が3.9、「事象を理解する視点や考え方を得た」3.9、「課題を検討する力を得た」4.0、「的確に判断する力を得た」4.0、「学びを深めたいと意欲を持った」4.0、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」3.9、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」3.9、「職業選択の参考になった」4.2などであった。目標は、「達成された」と考える。 ③学習量の評価については、1回30分程度以上の学習については、予習は33%、復習は33%の学生が取り組んでいた。授業の課題以外に取り組んだ学習は「レポートのための資料集め」「気になったことを図書館で調べた」「キャリアについて考えた」などの回答があった。また、授業の課題以外に取り組んでいない学生の理由として、「授業で理解できた」「他の科目の課題で忙しかった」「時間がなかった」「何をやっていいかわからなかった」などの理由であった。 ④シラバスは44%の人が参考にしてしたが、あらかじめ授業計画を立てた人は28%であった。図書館の利用者は25%、インターネットを利用した人は63.8%であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての妥当性 看護キャリア形成論は、看護専門科目の必修科目であり、看護実践の基盤となる科目で2年次に位置付けられている。1年次に看護実践の基盤の科目や総合人間科学科目の「キャリア開発論」の科目を履修していることから、2年次の履修として内容的に妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標から見ての内容的妥当性 行動目標からみると、学生は、自己の強みと課題を明らかにし、問題解決に向けて方策を考えたり、看護専門職として自らの将来像をイメージし具体的にレポートに記述することができた。 学習到達度の自己評価では、「自分なりの目標を達成した」「知識を確認、修正、新たに得る」「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得る」「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得る」「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得る」「学びを深めたいと意欲を持つことができた」などの項目において肯定的評価であった。また、学生も一定の成績を修めていることから、内容的に妥当であると考ええる。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性に問題は無いと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①講義の進め方は、講義概要の説明後に、MSR(就職課が実施)を受け、その結果に基づいて自己分析を行い、自己の強みと弱み、自己PRなどを記述し、レポートを作成した。また、看護職の働き方改革やワークライフバランスを調べて考えるレポートを課題とした。その後、看護専門職の専門看護師について先輩の話聞き、自分の将来像を考える機会を設定した。また、看護職としてのキャリアプランやライフプランの作成を課題とした。その後グループでの意見交換、全体での発表会を行った。全体的に目標は達成した。 ②授業の質の評価では、「テスト、レポート、提出物の評価基準は明らか」4.1、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らか」4.2、「説明は理解しやすいものであった」4.0、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会」については4.2であり、「質問を受付、回答する」4.0であった。 ③学習量の評価では、予習・復習に取り組む学生の割合は少なく、他の科目の課題が多いという理由で、課題以外の学習に取り組めていないことがわかった。 ④欠席する学生やレポートの提出期限に遅れた学生もいたため、課題の内容や提出について検討する。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	科目の学習として、到達目標は全体的に達成できたと考える。 ただし、学生の進路については、前期終了後の8月に保健師課程と教職課程の選抜試験があるため、可否の結果でキャリアプランの再考を必要としたり、就職後に変更することもあるため、本科目で作成したプランは将来にわたって状況に応じて変更していく可能性があることを伝えている。 今後は看護専門職のキャリア形成に関する話を聞く機会について職種を増やし、動画なども導入してグループ学習・発表の機会を作り、主体的学習をすすめるように工夫することが必要である。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	看護学科
氏名	杉浦 絹子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ウィメンズヘルス	3	前期	選択	いいえ	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	回答者が受講生27中3名のみであったため、評価は受講生全体のリアクションを反映していない。受講動機は3名全員が「単位数を確保する」を選択し、さらに1名は「関心のある内容である」、もう1名は「GPAを上げる」であった。本科目は看護学科3、4年生の選択科目であり、助産師志望の学生に受講を勧めていることも影響していると思われる。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	レポートの平均得点は79.0±7.9点（最低60点、最高90点）、評価はS7.4%(2名)、A40.7%（11名）、B37.05%(10名)、C14.8(4名)であった。レポート提出期限を授業最終日の1週間後としていたため、授業アンケートの自由記述にはレポート作成のための学習時間が反映されていなかったものと思われる。レポートの記述内容から鑑みて、実際にはレポート作成のために図書館、インターネットの利用が活発にされていたことが推測される。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は前期前半の開講科目であり、最終回は5月末であった。授業最終日とアンケート入力日に日にちがあいいため、回答者は3名のみであった。ゆえに平均値等の統計的分析結果は受講生全体の評価を反映していないことを考慮する必要がある。 本科目では、女性の健康、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、ジェンダー、生命倫理に関する最新のトピックスを選び、1授業1テーマについて、当事者の視点を中心に据え事象の背景や社会状況についても考えさせる内容の動画教材を視聴してもらい、感想や意見をスマホを使ってMiro上に記入する時間を設け、それを教員が読み上げて共有した。下欄に示す自由記述では、多くの知識を得るとともに考えさせられる内容であったと記されていることと相応し、到達度自己評価の中央値は全て5.0点、到達度4.3点、知識の獲得4.7点、事象の理解5.0点、課題の検討力4.3点、判断力4.0点、学びの意欲4.3点、技術3.7点、コミュニケーション力4.0点、職業倫理4.3点、職業選択4.3点であった。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	自由記述は、「先生のおかげで色々な知識を得ることができました。また、いろんなことを考えさせられる授業でした。とても受けてよかったと思える授業でした。」の1件であった。改善点についての意見はなかった。次年度も本年度同様、女性の健康、リプロダクティブ・ヘルス・ライツ、ジェンダー、生命倫理に関する最新のトピックスをテーマにして構成し、考えさせる授業を展開する。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本年度はオンラインホワイトボードMiroを用いて意見・感想を記入する時間を設け、それを教員が読み上げて共有した。次年度は、コミュニケーション力の向上のために、対面でペアあるいはグループで意見交換し、さらに全体で共有する方法とする。

学科	看護学科
氏名	財津 倫子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
クリティカルケア看護学	4	前期	選択	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	①人工呼吸器を装着する患者の看護について、知識だけではなく、実体験を通して人工呼吸器を装着する患者の苦痛や看護の根拠について学ぶ機会となった。 ②救急・クリティカルな状態・状況における患者及び家族に対する倫理的課題や調整について、事例を提示し、グループワークを通して患者・家族・看護師の葛藤について考え、看護師としての行動について考える機会とした。 ③学生の受講動機では、8名の回答があり、「必修科目である」が2名（25%）、「資格取得に必要である」が4名（50%）、「関心のある内容である」2名（25%）、「単位数を確保する」が3名（38%）、「教員に勧められた」2名（25%）、が動機になっていた。 ④外部講師の集中ケア認定看護師による演習を組み込んでおり、演習終了時の学生の意見として、患者体験を通して、患者さんの表情を観察する大切さを痛感し、患者さんの不安を軽減するための声掛けや、わかりやすく説明する大切さを学んでいた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	本科目の履修者は15名であった。最終的な成績の平均値は、86点（SD3）点であった。A判定（90+）2名、B判定（80-89）13名であったが、平均は80点以上であり、理想的なレベルに到達することができたと判断する。 DP別では、「知識理解」は、80.5%、「思考判断について」は77.4%、「関心意欲について」は95%、「態度について」は94.7%、「態度・根拠」は97.3%、「学び続ける姿勢」は82.7%であった。全体的に講義に対して真面目に取り組む姿勢がみられ、概ね目標は達成された。 学生による授業評価においては、「到達度自己評価」をみると、平均値は4.0-4.8に推移しており、全ての項目において、全ての学生が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答していた。 「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の評価項目が4.0と最低値であり、ディスカッションをする機会が少なかったと反省する。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「看護の発展」の「看護キャリア形成と看護実践」に位置付けられ、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価では、「知識理解」は、80.5%、「思考判断について」は77.4%、「関心意欲について」は95%、「態度について」は94.7%、「態度・根拠」は97.3%、「学び続ける姿勢」は82.7%であった。クリティカルな状態にある患者および家族の倫理的な問題は、クリティカルケア看護学において重要な課題である。平均点の86点から考えても、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、殆どの学生が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそう思う」に回答しており、平均値も4.6～4.9であった。個人ワークおよび発表の場を設けたことで、個人の学びを共有する機会と学生の質問に対応する機会となった。 図書館等の利用において、学術データベースを利用し検索した学生87.5%、インターネットのホームページを検索し利用した学生100%と、最新の情報から学び、その情報をまとめたことがうかがえた。今後も課題への内容の広がりや理解の深まりを目指し、インターネットの利用方法の説明を続ける。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は「看護の発展」の「看護キャリア形成と看護実践」に位置付けられる、4年次の選択科目である。行動目標については、概ね達成できたと考える。 今後も、演習時間内に集中して理解が深められる内容とし、最新の情報の捉え方を会得し、学び続ける姿勢を育めるような、興味関心が持てる授業展開を続けていく。 次年度から新カリキュラムとなり、4年生後期の科目となるため、看護総合実習後の履修となる。 本科目で実習の復習ができると考えられる。さらに、国家試験に向けた知識の蓄積が出来るように、授業をすすめていく。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	看護学科
氏名	鹿毛 美香

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疫学	2	前期	選択	いいえ	46

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、看護学科専門教科科目のうち「看護を学ぶための基礎」として置かれている「保健統計学」既習後に受講する。また、「公衆衛生看護学関係科目」でもあり、看護専門科目としては選択科目であるが、保健師課程では必修科目である。そのため、保健師として必要な疫学の基礎知識の習得とその理解が求められる。今年度は、対面授業15コマで構成され、1年次の「保健統計学」と連動させ展開している。 学生の受講動機は、「資格取得に必要」が67.0%、ついで「単位数の確保」が39.0%であり、今回の受講学生の多くは保健師課程希望者であることが示された。しかし、単位数確保のために受講動機としている学生もいるため、昨年同様に保健師の活動事例だけでなく、看護師でも活用する具体的な例示を演習課題とする等を試みる必要があった。 この科目は、演習科目として学生が思考を深めることにも重点を置いているため、演習課題を基本個人ワークとして取り組むようにしたが、個人ワークでは困難な課題と予測されるものについては、小グループワークを取り入れ、学生の思考を促した。また、毎回授業後に「学びの内容と質問」自由記載させ、個々の学修状況を確認した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は，82.96(±8.69)点であり、再試対象者は0名であった。GPAの理想的レベル（成績「優」・「秀」レベルとする）に到達した学生は71.74%、成績「良」レベルが19.57%で、概ね優秀な成績を収めている。 DPの目標別達成率として、DP1「知識・理解」86.98%、DP2「思考・判断」70.95%であった。思考判断では、与えられた課題を解決する際に学習の中で得た知識を活用し、応用していくことが必要であるが、その点の習得がやや十分ではなかったことが示された。加えて「学生の到達度自己評価」においてコミュニケーション力を高め表現する時間が授業時間に少ないと回答している学生が数名いることから、グループワークの内容や頻度について次年度の課題と捉え、検討していきたい。また、科目の性質上、職業倫理を考えさせる機会を明確に提示していなかったことから、講義内容からそれを感じるとれなかった学生が数名いたため、次年度の課題とする。 しかし、学生の成績およびDPの目標別達成率からみると、学生は概ねこの科目の目標に達成していると考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「単位数確保」または公衆衛生看護関係科目として「資格取得」に必要であると認識し、学生は受講している。授業内容としては、「保健統計学」を既習しているため教科書および内容を連動させ進行している。学生も一定の成績を取めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からみると平均値は80点を超え、DP1「知識・理解」の到達率は80%、DP2「思考・判断」の到達率は70%を達しているため、内容的には妥当であると考え。 ③まとめ 以上、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の「到達度自己評価」の平均値は3.6～4.4、中央値は3.5～5.0であった。「学生の到達度自己評価」の平均点でもっとも高い項目は「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討することができた」で4.3、もっとも低い項目は「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」「職業倫理や行動規範（守るべきルール）について学ぶことが出来た」の3.6であった。 学生による「授業の質評価」の平均値は4.3～4.4、中央値はほぼ5.0と高い値であった。しかし、その中で平均値、中央値ともに低い項目は「授業中に、自分の意見をまとめる。話し合う、発表するなど、学生が参加できる機会がつくられていた」4.3であった。 学生の「到達度自己評価」、学生による「授業の質評価」の平均値が低い項目をみると、「自身の考えをまとめ、表現する」という機会の不足が考えられる。科目の性質上、数的理解および計算力は必須であるが、それに伴うデータ解釈などのグループワークを増やし、コミュニケーションの機会を今以上に行っていきたいと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、看護専門科目の選択科目でありながら、保健師課程の必修科目でもある。基本的な知識の獲得については達成できたが、思考判断の面では課題を残した。この点は、自身を含めた公衆衛生看護学関係科目担当教員と共有し、指導を継続する予定である。 授業を振り返ると、全体的成績としては、概ね目標に達成する成績を修めているが、思考判断力の獲得についてグループワークなどの活動時間をできる限り確保し、改善を図りたい。また、学生へのオリエンテーションにて事前課題の取り組み方など学生自身が準備状況を整えられるようシラバス説明をより丁寧に行いたい。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保健医療福祉行政と政策	3	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は、3年生前期に配置された選択科目である。保健師課程の学生には必修科目となっている。 受講者18名中、アンケートに回答したのは5割となっていることが残念である。 ②科目内容は、既習した保健医療福祉の知識を基盤に、行政の施策及び政策の策定まで学習する内容となっているため、現存する日本における制度を具体的な事例を通して、思考する構成としているため、課題及び個々の学生とのやり取りにより主体的学習をすため、ワークシートを活用した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、91.1点、再試対象者は1名であった。理想的レベルに達したものの94.4%であった。 目標別にみると、知識理解は90.8%、思考判断は89.5%、関心意欲は99.4%であった。 到達度自己評価では、10項目中9項目が4.0以上であり、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野の課題を検討する力を得ることができた」が4.3であった。 自由記述欄には、教員との課題のやり取りについての一定の成果がうかがえるコメントや具体的事象による授業展開に行政施策の理解が深まった等のコメントが書かれていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」の「公衆衛生看護関係科目」の選択科目である。3年生前期となっているため、保健師課程を選択している学生と、単位取得のためという動機の学生がいる。そのため、いずれの学生も科目の内容を学習する中で、学習意欲をいかに引き出すか授業方法の検討を行った。結果、最終的な成績評価からは、82.9%が理想的レベルに達していることから内容的には妥当であるとする。 ②DP行動目標からみでの内容的妥当性 知識理解、思考判断及び意欲関心に位置付けられた科目である。、知識理解は79.2%、思考判断は87.3%、関心意欲は95.1%の学生が達成していることから概ね内容的には妥当であるとする。 ③到達度自己評価 到達度自己評価において、回答した学生は、全項目4.0以上の平均値を示している。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、回答した学生は、全項目4.0以上となっており、学習における学生の満足度も高く、意図した主体的学習を促すための教育として一定の成果がみられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の達成状況については、授業成績及び授業評価アンケートより計画している状況は、概ね達成できていると評価できる。 授業の工夫により、学生との双方向コミュニケーションは、一定の成果を上げたと思う。今後もこれらの状況を踏まえ、更なる授業方法の工夫を検討していきたい。

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護活動演習	4	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	公衆衛生看護関係科目群において、公衆衛生看護の方法と技術を教授する科目である。地域で住民を対象に行う健康教育や、地域組織活動といった集団や組織を対象とした公衆衛生看護技術については理解度が弱い。そこで、基本的な知識及び理論を教授し、その後に実際の保健師活動でどのように援助を行っていくのかについて外部講師との十分な打ち合わせを行った。また、効果的なDVD教材を選定し利用するなど準備を行った。受講動機をみると「資格取得に必要である」100%、「関心のある内容である」13.3%（46.2%）「単位数を確保する」6.7%（63.1%）であった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	「公衆衛生看護学実習」の実習施設地域を対象に、地域診断、家庭訪問、健康教育スキルを習得する演習科目である。政府統計e-statを主なデータベースとして、実習地域の人口統計・健康指標データ等を収集し、各実習施設の情報収集・アセスメントを行えるよう準備した。 回答数13名中、受講動機をみると、「資格取得に必要である」9名（69%）で、資格取得科目であることの動機がもっと高かった。次いで「必修科目である」7名（54%）、「関心のある内容である」2名（15%）であった。成績は総合評価は82.5点。観点別評価の到達度で、DP2-1：74%、DP3-2：95.6%、DP4-1:97.8%、DP4-3：89.4%。学習到達度の自己評価は、「自分なりの目標を達成した」（平均3.9、中央4.0）、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（平均4.3、中央4.0）、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」（平均4.1、中央4.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」（平均4.2、中央4.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」（平均4.2、中央4.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」（平均4.1、中央4.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（平均4.2、中央4.0）、「コミュニケーションや表現力を身に着けることができた」（平均4.2、中央4.0）、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（平均4.2、中央4.0）、「職業選択の参考になった」（平均4.1、中央4.0）。学習量の評価はと、図書館、インターネット利用については、11名（13名中）が利用していた。学習量では、「30分以上の準備」6回と回答したが最も多かった。その一方、「0回」2名（13名中）であった。課題以外の学習は、7名（13名中）が取り組んでいた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「公衆衛生看護領域」に含まれる保健師課程必修科目である。2年生後期「公衆衛生看護方法論」で修得した知識に基づき、実習地域を対象として、地域診断を行う演習科目である。開講時期は実習施設が確定した4年生前期であり、履修者は保健師課程学生のための受講である。「学習到達度の評価」では、『自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた』4.2、『知識を確認、修正したり、新たに得ることができた』4.2の結果から、知識を実習地域の分析に生かし、新たな知識を得ながら思考する力がついたと認識することができていた。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 観点別評価の達成度（客観的）に見ると、DP2-1(70.8%)、DP3-2(98.8%)、DP4-1(100.0%)、DP4-3(95.3%)であった。成績評価では思考判断に関する達成度は前年度とほぼ変わらなかった。 以上より、DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけからみた内容的な妥当性に問題はない。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質の評価」では、『授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた』4.7(4.0)、『口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受けつけ、それに答える機会が作られていた』4.5(5.0)、『期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった』3.7(4.4)、『テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった』3.7(4.0)、『説明は理解しやすいものであった』4.1(4.0)であった。 毎年度、自己学習、グループ学習課題に関する学習量はかなりの時間を要しているため、毎回、次の授業までの課題を学生と話し合い、学生が進行管理を行えるよう計画的に進めるように心掛けた。 また、前年度の自由記載欄に、担当教員による関わり方の相違についてコメントが寄せられていたため、譲歩共有を意識して対応した。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	客観評価における学習到達度は、ほぼ全員が到達した。理想レベルの到達状況は前年度と同様であった。 学生の到達度自己評価及び授業の質評価の平均はいずれも前年度と同等であり、大方、到達度自己評価は目標を達成できた。 授業以外の課題学習については、図書館の図書、雑誌、学術データベース、インターネットなどの活用が増えていた。

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疾病学各論Ⅱ	2	前期	必修	いいえ	86

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	疾病学各論は、各分野の主要な疾病について概念、疫学、症状、検査、治療などを解説する系統講義です。疾病の知識は、全ての看護科目を学ぶうえで基礎となり、将来に臨床現場で看護業務を行うために必要不可欠です。看護師国家試験でもこの範囲から多くの問題が出題されます。 疾病学各論Ⅱでは、診療総論、内科疾患(腎臓・泌尿器、血液、免疫、感染)と小児科、精神科、整形外科、眼科・耳鼻科・皮膚科疾患について講義しました。また、1年次の授業（形態機能学、感染と免疫、など）との連続性を踏まえた統合の講義も行いました。小児科、精神科は医療現場の最前線にいる専門医に外部講師を依頼し、内科疾患は大学の専任教員が担当しました。範囲が膨大ですので、臨床現場で重要なことや看護師国家試験に出題されることにポイントを絞って、要領よく解説するように工夫しました。また、臨床現場での経験談なども紹介したり、1年次の授業と関連させたりして、学生さんが興味を持って取り組めるように心がけました。 授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」が100%ですが、「資格取得に必要である」「関心のある内容である」などの回答もあり、看護師になる自覚や国家試験に意識を持ち始めた表れと考えます。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験と授業貢献度の総合判定で、平均値は77.5点（最高97点、最低40点、中央値79点）でした。秀：12名、優：28名、良：25名、可：16名でした。理想的レベル（80点以上）に到達したひとが全体の5割でした。60点未満で再試験を受験したのは4名でした。学生さんの授業態度も良好でした。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、ほとんどの項目で「まあまあそうだと思う」以上の達成感を示す回答が大多数でした。皆さんが必死に勉強した表れだと思います。コミュニケーションや表現力の評価がやや低いのは毎年ですが、主に医学知識を教授する座学の講義であるのでやむおえないと思います					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「疾病学各論Ⅱ」は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。1年次で学んだ「形態機能学」や「感染と免疫」を基礎として、2年次以降の全ての看護専門科目の学びに不可欠な内容を教授します。看護師国家試験にも疾患に関する問題が多く出題されますので、早くからの勉強が必要です。疾病学の残りの分野（疾病学各論Ⅰ）や薬理学は同時期に開講されます。 学生さんの受講態度、試験の結果、到達度自己評価などからみて、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけからみて、内容的妥当性に問題はないと考えます。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価をみると、ほとんどの項目において「まあまあそうだと思う」以上の評価を得ています。学生参加の評価が低いのは毎年の課題ですが、ストリームにあがった質問に対してはできるだけ次回の授業で説明するようにしました。 アンケートの学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている学生さんは約3割でした。自由記載をみると、授業以外での学習量が少ない理由として「授業中に理解できたので」という解答も複数ありましたが、「他科目の課題が多くて時間がない」という意見も多くありました。次年度はあまり時間をとらない課題などを検討したいと思います。 なお、本科目では小児科、精神科の講義が外部講師のオムニバス形式になるため、試験問題を私が見直すなどして出題形式や難易度に統一性を持たせるように試みました。次年度も継続したいと思います。一部の外部講師に対して授業が聞き取りにくいという意見がありましたので、次年度に改善をお願いしたいと思います。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	疾病学の知識は、臨床現場で看護を実践するために基盤となるもので、看護師国家試験に合格するためにも不可欠です。大多数の学生さんは標準的レベルに到達することができたと判断しました。 後期以降も病院実習などを通して疾病に関する興味を高め、自分で勉強を進めていって欲しいと思います。

学科	看護学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
発達心理学	2	前期	選択	はい	48

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	現代社会は優劣や勝ち負けにこだわり、上ばかり見て競争に勝つことが価値であるかのように見える。まさに現代社会は「脅迫的なストレス社会」であると感じる。心理学の分野に期待が高まっている。本講義では基本となる心理学一般の基礎知識や教養的知見の修得を目指しながら、専門性のある生涯発達心理学の視点から授業を組み立てている。それは今を生きる学生に最も必要な「生き方の模索」に関わる問題だからである。昨年度の大きな課題は講義中の集中力をいかに途切れないようにキープさせるかという点であった。このため講義途中で「映像」を多く取り入れた。自由記述などを読むと概ね成功したと理解できる。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体を通して達成されたという根拠は「定期試験の結果」である。優れた及び良しの合格点を取った学生はほぼ100パーセントに達した。定期試験は記述式がその中心であるが、記載の内容も的を得たものでありしっかり書かれており理解の進んだものであった。また学生の授業評価アンケートの記述にも「ためになった」「分かりやすかった」「面白かった」などが多数あり、知識理解と意欲関心について一定の水準を保ったことが伺えると思った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	効果が実証されている方法を今年も採用した。毎回の授業について、ミニ感想や質問を自主的に書いて提出するように求めている。この効果は大きく好評のようである。自由記述を見ると、これに関する「人生に関する回答の時間が一番良かった」「心理学だけでなく雑談や人生の話が面白かった」等の記述もあり、本科目の目標である「ストレスの多い現代社会を生き抜く健康な心構えを形成する」というねらいが達成されたと評価できる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	長年の私の課題である、自学自習を促すための「次回の授業までに日々の生活の中で心にとどめておいてもらいたいこと」を伝えた方が良いのではないかと授業アンケートの結果からまだまだ改善されていないと言える様である。昨年同様に学習量を高める工夫の一つとして予習の課題設定を今後さらに試行継続してみたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	年度当初の学生に期待した行動目標は概ね達成出来たと思う。しかしまだ授業中に集中力が途絶え、睡眠モードに切り替わる学生が幾人が存在する。注意の仕方に工夫をくわえてきたが、睡眠学習者0を達成するのは容易ではない。今年度取り組んだ映像や教師の発問、討議話題の挿入などまだ工夫の余地を継続して続けたい。がんばりたいと思う。

学科	看護学科
氏名	長崎 恵美子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護技術論演習	1	前期	必修	いいえ	95

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、1年次前期で入学後初めての看護技術を学ぶ必修科目である。今年度の受講動機は、「必修科目である」100%、「資格取得に必要である」23%、「関心のある内容である」12%であった（回収率96%）。 授業の実施にあたり、看護に興味をもち、看護技術の楽しさにつなげること、身だしなみや規則の遵守などの学習態度や事前・事後学習を行い主体的に学ぶ姿勢を養う力を定着することに重きを置いている。そのため、事前・事後課題を必須として講義・演習に参加するようにした。1年次前期にある早期看護実習の準備性として、環境調整が大きな柱となるため、本科目ではベッドメイキングを実技試験として取り入れている。ルールを守りながら技術を確実に習得することを目標としているため、1か月前には実技試験の詳細を提示したうえで、十分な自己練習の機会を提供し、教員の助言や動画配信など学生の取り組みをサポートした。 知識習得確認のために毎回講義終了時に小テストを実施した。また、ポートフォリオを作成し、初回授業で目標設定し、終了時の達成評価で振り返りを行い、自己の成長や課題を具体化した。毎回の学びや疑問を記載してもらい、次回講義や演習で補足説明の時間を設けた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	①評価基準は、定期試験50%、実技試験20%、レポート20%、講義終了時の小テスト10%、態度・身だしなみの不備などを減点対象として総合的に評価した。最終成績の平均は81±7.9点で、秀13名、優43名、良29名、可10名で再試験対象者はなかった。 ②授業評価は、受講学生95名中、91名の回答があり、回収率96%であった。 到達度自己評価において、「自分なりの目標を達成した」という肯定的な意見が約94.5%であった。項目別の評価平均では、「知識の確認や修正、新たに得た」4.7、「事象を理解する視点や考えを得た」4.1、「課題を検討する力を得た」4.3、「的確に判断する力を得た」4.2、「学びを深めたい意欲をもった」4.6、「必要となる技術を身につけた」4.5、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」4.2、「職業倫理や行動規範を学ぶことができた」4.5、「職業選択の参考になった」4.2と自己評価は概ね高く、目標は達成されたと考える。 ③学習量の評価としては、1回30分以上の予習を87%、復習を86%の学生が複数回取り組んでいた。取り組んでいない理由としては、「講義資料やテキスト等で充分理解できる」、「他の課題に追われていた」という意見が多かった。 ④シラバスの記載を参考にした学生は80%と多かったが、あらかじめ授業計画を立てた学生は31%であった。インターネット利用は58%で半数近くが利用しているが、図書館利用は8%と低いため、文献を検索したり活用するような課題の提供が必要と考える。					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、看護専門科目の必修科目であり、看護実践の基盤となる科目で1年次前期に位置付けられている。人を生活者として捉え、人の尊重を基本とし、看護実践の基盤となる感染予防・環境調整・コミュニケーション・ボディメカニクスなどの項目について学修するため、内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 行動目標からみると、看護技術を提供する意味や安全・安楽・自立・倫理的配慮・能率性の視点を持つ必要性を理解したり、スタンダードプリコーションの考え方、ボディメカニクスを意識した行動については、講義や演習を通して実践できた。援助に伴う倫理的課題についても、演習での患者役を通して考えることができた。チーム医療の基本となるルールの順守や連絡・報告についても行動できるようになった。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①本科目は演習科目であるため、各単元の演習時には必ずシェアタイムを序盤に設け、技術やコミュニケーションなどでの疑問点や困難に感じている点を学生間で話し合い、意見交換することを定着させた。これは、自己の意見を他者に伝えるスキルとなり、自己の考えを発信する自信をもつことにも繋がる重要性がある。また、教員が補足説明を行って解決に導くことで、よりよい技術の獲得へつなげ、看護技術の達成感ややりがいへと結びつくように進めた。また、演習には必ず実施役・患者役・観察役の役割をもつように設定し、尊重の意識を高めて倫理的配慮につなげたり、他者評価を受けることで、自己では気づかない部分を明らかにする振り返りとなっていた。講義においても、ポートフォリオを毎回記載することで、学びを具体化したり、短時間で自己の考えをまとめて記述する力をつけることができ、疑問等については次回でフィードバックをすることで学生の理解を深めた。 ②授業の質評価においては、「テスト、レポート、提出物の評価基準が明らか」4.3、「期間内に行う学習の範囲や課題が明らか」4.6、「説明は理解しやすい」4.4、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が設けられていた」4.5、「学生の質問を受け付け、答える機会がある」4.2と概ね高い評価であった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	看護専門科目の入り口にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識や技術の形成については概ね達成できた。 今後は、自己学習において、より主体的に行えるように課題の内容や時期の検討が必要と考える。

学科	看護学科
氏名	隅田 由加里

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
診療関連技術論演習	2	前期	必修	いいえ	88

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は必修科目（受講動機100%）であり、基礎看護学領域において看護師国家試験出題数が最も多い科目でもある。また臨床現場においては看護師による医療事故事例が最も多い「診療の補助」業務に値する科目のため、国家試験や医療安全を加味した授業構成としている。このため学生が主体的に興味を持ちながら取り組むことができる、チームメンバーと協力・連携しながら実践することを意識した授業形式としている。 ②授業形態は各单元ごとに講義⇒演習⇒振り返りを基本とし、アクティブラーニングを活用した知識・技術の質向上を目指している。講義後はDVDを各自で視聴しイメージ化を図って演習に臨む。そして演習時には学生の方の了承を得て個人が特定できないように配慮して撮影を行い、その画像を活用して振り返りを行い、安全な看護技術の思考をグループで行う。最後は各单元ごとにレポートを記載し基礎的知識の習得へとつなげるようにした。 ③学生のグループワークの負担軽減を考慮し、同じ時期に開講されている看護過程論と連携しグループメンバーは同じに調整した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	達成された		達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①知識理解における自己評価は、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた（平均値4.4点、中央値5.0点）」「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた（平均値4.3点、中央値5点）」「専門分野の必要となる技術を身につけることができた（平均値4.3点、中央値5.0点）」と高値であり、昨年度の自己評価と同じレベルであった。しかし定期試験（100点）の平均値は68.70±11.10で昨年度とほぼ同じ状況であり、理想的レベル（80%以上）には至っていないため「やや達成」と判断した。 ②思考判断においてはレポートを中心に判断し最終テーマである「安全な診療技術の提供」について思考できていた。自己評価においては、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた（平均値4.4点、中央値5.0点）」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた（平均値4.3点、中央値5.0点）」は高値であったため、基礎的な判断はできると判断し「達成された」と評価した。 ③態度に関しては、遅刻や無断欠席はなく、提出物は期限内に提出できていた。自己評価の「職業倫理や行動規範（守るべきルールなど）」について学ぶことができた（平均値4.5点、中央値5点）」と高値であることから「達成された」と判断した。 ④最終総合成績の平均値は71±8.90点（最高91点、最低48点）で、60%の評価割合をもつ知識理解に課題を認めたため、全体を通しては「やや達成された」の評価に至った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①本科目は基礎看護領域での看護技術関連授業の最終科目である、また看護過程論と同時期に開講されることで、本授業の知識を看護過程論に活用することも可能である。さらに2年後期からは各領域の看護方法論が開講され、本授業の知識を応用していく段階となるため、開講時期が2年前期であることは妥当性がある。 ②授業は看護師国家試験出題基準を加味し、各単元ごとに講義⇒動画視聴⇒演習⇒振り返りの流れで授業を組み立てている。使用する医療器材も現在臨床現場で使用されているものを使用している。最終成績の平均は71±8.90点と理想レベルには到達していないが標準レベルの看護実践に必要な基本的な知識を修得できる構成ではあると判断する。思考・判断においては演習後の振り返りで複数の学生が気づきや課題を抽出し発表するとともに、遅刻等もなく演習ルールを遵守していることから態度面でも看護実践者としての倫理姿勢を身に着けていると考える。授業の質評価においても、全項目で平均値は4.3～4.4点、中央値は全て5点と高い結果であり、学生の自由意見にも「わかりやすかった」が記載され、要望等の記載はなかったため方法面も含め内容的妥当性はあると判断する。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①講義の中で特に重要な基本的知識に関しては文字を大きくするや色調を変えるなどの工夫を行い、文字だけでなく図やイラスト等を用いてわかりやすく解説するように留意している。また本科目は形態機能学の知識を活用する必要があるため、事前学習課題は主に形態機能学を中心に提示している。学生の取り組みの自由記載にも「予習・復習を行った」「形態機能を復習した」等の記述が複数見られており、科目間のつながりを意識させることはできたと判断する。 ②定期試験に関しては、全ての単元から抽出し作成した。またレポートに関しては、授業開始時にテーマを提示し演習を通して思考できるように配慮した上で、事前に評価基準も提示した。 ③演習ではワークシートや技術チェック表を作成し振り返りができるように配慮し、演習後の翌週の授業内にリフレクションの時間を取り入れ学生が内観し参加できる時間を大切にした。 ④学生の担当教員への意見は「とてもわかりやすい授業でした」のみで、特に改善を希望する内容は認めなかった。 以上の実践と学生の意見から、学生の満足度は相対的に高かったと考える。今後は他の教員との情報共有や教員間の振り返りをさらに充実させ、演習が円滑に進行し学生の理解と満足度が高まるように調整を図りたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	最終総合評価の平均値は71±8.9点（昨年度74.86±13.45点）で昨年度より学生差は減少しているものの平均値は低下し、理想的レベルには達していないと考える。しかし学生は、前述した知識・技術の習得や思考・判断だけでなく、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた（平均値4.3点、中央値5点）」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた（平均値4.3点、中央値5点）」「職業選択の参考になった（平均値4.3点、中央値5点）」の自己評価も高く、興味をもって学習を行うことができていたと思われ、満足感のある授業を実践することはできたと考える。 今後の課題としては、まずは、さらに学生の知識習得の向上が図れるように教授法の向上に取り組むとともに、事前・事後課題を提示していたものの、予習・復習が0回の学生が15～20%おり、約半数は図書館等も活用していないため、学生の自主的な学習が促進できるよう動機付けを図っていく工夫を行う必要があると考える。

学科	看護学科
氏名	溝部 昌子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護研究の基礎	3	前期	必修	いいえ	78

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①看護実践が看護研究の要素を含むこと、臨地実習の学びは看護研究の手法を用いること、4年次履修予定の卒業研究の基礎なることを伝え、学修モチベーションを高めることを意識した。 ②4人で担当している科目で、毎年の振り返りをもとに、単元のコマ数や前後関係を調整するなどしてきた。情報検索、論文クリティークの作成、研究計画書の作成、Googleformによるアンケート調査、エクセルによる図表の作成、論文抄録の発表、パワーポイントプレゼンテーションの作成の実施など研究の一連のプロセスを体験的に学ぶための所要時間や指導のポイントを踏まえて、その時間調整がうまくできていると感じる。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①この科目は、2回の個人課題と6回のグループ課題の評価からなる。このため、グループで研究テーマについて調べたり、話し合ったり、文書を作成するなどの目に見える形での貢献が必要になる。 ②最終評価は、平均82.3点、中央値83点であった。グループワークに対する貢献度を厳密に評価することは困難であり、グループによっては人間関係など学修課題の他に苦勞することもあったと思われる。 ③授業評価では、3、7～4.0と低く、看護研究に対する学修モチベーションや興味関心より、グループワークの大変さが反映されているものと思われる。 ④学生は、同級生を対象に、睡眠時間、結婚観、恋愛、アルバイト、勉強方法、お金の使い方など身近なテーマで研究課題を設定し、質問項目を検討し、得られた結果を考察するなど、自身の興味に基づいて取り組んでおり、効率よく学べていたと感じる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①この科目は、2回の個人課題と6回のグループ課題の評価からなる。このため、グループで研究テーマについて調べたり、話し合ったり、文書を作成するなどの目に見える形での貢献が必要になる。 ②最終評価は、平均82.3点、中央値83点であった。グループワークに対する貢献度を厳密に評価することは困難であり、グループによっては人間関係など学修課題の他に苦労することもあったと思われる。 ③授業評価では、3, 7～4.0と低く、看護研究に対する学修モチベーションや興味関心より、グループワークの大変さが反映されているものと思われる。 ④学生は、同級生を対象に、睡眠時間、結婚観、恋愛、アルバイト、勉強方法、お金の使い方など身近なテーマで研究課題を設定し、質問項目を検討し、得られた結果を考察するなど、自身の興味に基づいて取り組んでおり、効率よく学べていたと感じる。 ↑ここまでは上段の記載 ①看護学に基づく看護の実践は、看護研究の知識とスキルを必要とするため、この科目で研究の一連の流れを実践的に学ぶことは、臨地実習の学びを深め、卒業研究の基盤を築き、卒業後は継続的な学修や看護の質の向上などすべての学生のキャリア開発の方向付けとなっており、教育内容や方法も妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①3年生前期の負担軽減の観点から、ここ数年課題の取り組みを授業内で済ませることや、分量をコンパクトに制限することで、他の科目の学修を圧迫するようなことは減っていると考えられる。しかしながら、グループ構成員の働きや人間関係によって、時間的・心理的負担には差があり、その調整能力の成長にも差がある。 ②過度な負担を軽減することと、学修課題を差し引くことは異なるので、学修状況を把握し、学生の意見を聞き、担当教員で調整をはかりながら進めてきた。 ③学修モチベーションをあげるための、論文の提示や研究課題の設定など、時季に応じて学生に身近な健康課題や社会問題を選ぶなどの工夫が必要である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①現在の15コマで時間内にかなりのグループワークが完遂できている状況、最終報告前の準備が宿題になっていることは妥当な課題量で、体験的に学んだ結果（実施した調査や発表、作成した資料）からも学修効果も得られていると考える。

学科	看護学科
氏名	中原 智美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
がん看護学	3	前期	選択	いいえ	62

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、専門教育科目で看護実践の発展に位置づけられる科目であり、既修のさまざまな科目を基盤にしている。あらゆる発達段階、地域のさまざまな場で病気とともに生きているすべての人々を対象とし、がん看護、緩和ケア、終末期看護の知識・思考を学ぶ科目である。本年度より新カリキュラムとなり、必修科目から選択科目となっている。 がん看護においては、地域で生活や仕事と治療を両立しているがんサバイバーを取り巻く状況を具体的に挙げながら、がんとともに生きるひとの全人的な理解が深まるよう解説した。なかでも、3年次後期からの実習でも不可欠となる知識として、がん治療の方法、メカニズム、有害事象を根拠とした看護方法について解説した。関心を高める働きかけとして、関連するトピックニュース・新聞記事・医療ドラマ、闘病されている方のブログ、図書などの紹介なども行ったり、最新のデータや臨床での実際の様子などを組み込みながら話した。また、ディスカッションを通して、学んだ知識を整理しながら思考したり、学生間で意見を共有したりする機会を設けた。緩和ケア（うち小児緩和ケア1コマ）、終末期看護については、命の大切さや死生観について具体的に考えるきっかけとして、ドキュメンタリー動画やDVD教材を用いた。要所要所では、「生や死」「倫理」などの知識を改めて整理して自分なりに考えをまとめる時間、他者と互いに表現し合う時間などを設定し、理解が深まるように工夫した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①最終的な成績の平均値は81.7点、最高94点、最低45点であった。58名（62名中、93.5％）が標準的レベルに到達している。そのうち理想的レベル（80点以上）に達した者は41名（62名中、66.1％）であった。再試験対象者は2名で、最終的には全員が合格した。 ②DP別の達成度は、【DP1】80.8％、【DP2】81.8％、【DP3】【DP4】ともに83.5％である。 ③アンケート回答率は51.6％（32名）と高くないが、必修科目だった昨年までとは異なり、受講動機については、「関心のある内容である」31％、「先輩・教員に勧められた」53％と回答している。 ④到達度自己評価の平均値は3.89（3.7～4.1）であった。なかでも「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」は4.1点、「学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.0点であり、本科目のねらいとしている専門職としての姿勢について修得し、意欲的に学ぶ姿が読み取れる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容妥当性 本科目は、専門教育科目のなかの看護実践の発展に位置づけられる科目であり、看護を学ぶための基礎や看護実践の基盤、応用をふまえ、がん患者や終末期にある患者の特徴、看護を学ぶための科目となっている。選択科目となったが、「関心のある内容である」31%、「先輩・教員に勧められた」53%と回答しており、一定の成績を修めていることから内容的には妥当であると考える。 ②DP、行動目標から見ての内容的妥当性 評価点、DP別達成度、学生の到達度自己評価、および本科目の行動目標も達成していることから、内容は妥当であると考える。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性は問題ないとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①15回講義のうち、予習・復習を1度も行っていない学生がそれぞれ53.1%・46.8%（昨年度は45.6%・36.8%）おり、例年以上に予習・復習を行っていない学生が目立った。その理由として「他の科目の課題に追われ時間的余裕がなかった」という意見が多かったのは例年と同様であったが、一方で「授業内で理解するように努めた」という意見も19%程度あった。 ②授業の課題以外に学習に取り組んだ学生は21.9%（昨年度32.4%）であった。学習内容としては、気になったことや興味のあることを図書やインターネットで調べたり、まとめシートを作成したりなど、課題以外の学習に自主的に取り組んでいた。 ③図書館利用・学術データベースの利用はそれぞれ15.6%、9.4%（昨年度はともに33.8%）、インターネットも40.6%（一昨年度86%、昨年度64.7%）の利用にとどまっており、学習量の少なさが顕著に認められる。 ④本科目では、毎回の学びと小レポート2回の提出は課しているものの、負担となるほどの課題は課していない。できるだけ授業内で理解を深めて欲しいとも伝えているため、そのことが予・復習の学習量とも関連している可能性はある。選択科目となったことによる影響の有無は不明だが、例年と比べて全体的に主体的な学修の姿勢は十分とはいえず、今後も引き続き関心を高め、自主的な学修を促進できるように働きかけを行っていく。 ⑤授業の質評価では、概ね肯定的であった。しかし、「授業中に何らかの意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」が3.7と最も低かった。例年と比べて意見交換の機会は少なくなかったが、講義の特性上、講義形式が多いことは否めない。同時期開催の各論演習科目などと比較している可能性も考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、専門教育科目のなかの看護実践の発展に位置づけられている。DP観点別でも満遍なく平均点が80%以上であり、科目の目標は概ね良好に達成できた。今後は、主体的学習を促す働きかけや、教授方法、評価方法についてさらなる検討を重ねていきたい。 本科目は選択科目ではあるが、がん看護はどの診療科、どの看護職種でも必要となる重要な知識である。次年度以降もできるだけ履修者を増やし、がん看護学への理解を深めて実習に臨むことができるように工夫したい。

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護方法論	3	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施にあたり、保健師に求められる多職種や住民等との連携、協働関係の形成をねらいとして、グループ単位での地域診断ワークを行っている。そのために、特に前半の地域診断では、ガイドブックを作成し、個人ワークとグループワークを連動させるよう授業を進めた。毎週提出される課題に対し、次の回にフィードバックし、グループワーク中には理解できたかを学生に問いかけ確認するなど行った。また、その他の授業でも、発言を促すなど、授業への参加度を高められるよう気をつけた。授業の学びを毎回提出させ、疑問点は次の授業でフィードバックすることや、授業後に短時間教室に残り、質問がある場合にはできるだけ対応した。授業外の質問に対応した。授業準備では、授業前に前週のうちに次の授業配布資料を配布し、他科目の自己学習と学習計画を調整しながら予習復習できるように配慮した。 学修準備性では、学習量の評価をみると、図書館、インターネット利用については、回答者全員が利用していた。学習量では、「30分以上の準備」6回と回答した者が最も多かった。課題以外の学習については、「授業で与えられる課題が多く、授業以外の課題以外に取り組んだ」と回答した学生は3名（13名中）であった。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	客観的評価は、全体達成度 Ave85点。思考判断（DP2-2）78%、課題発表を通しての意欲（DP3）90%・態度（DP4）95%であった。思考判断では、試験では基本的な知識、事例の情報収集及びアセスメント、地域の健康課題を解決するための地区活動、事業計画、施策化に関する判断を問うものであった。学習到達度の自己評価は、「自分なりの目標を達成した」（平均4.0、中央4.0）、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（平均4.0、中央4.0）、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」（平均3.9、中央4.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」（平均4.2、中央4.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」（平均4.2、中央4.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」（平均3.9、中央4.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（平均4.9、中央5.0）、「コミュニケーションや表現力を身につけることができた」（平均4.6、中央5.0）、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（平均4.1、中央4.0）、「職業選択の参考になった」（平均3.9、中央4.0）であった。学習量の評価をみると、図書館、インターネット利用については、13名（13名中）が利用していた。学習量では、「30分以上の準備」6回と回答したが最も多かった。その一方、「0回」4名（13名中）であった。課題以外の学習は、3名（13名中）が取り組んでいた。自由記載から「授業以外の課題以外に取り組む余裕がない」と回答した学生が複数おり、課題以外に学習した学生は3名（13名中）だった。 自由記載「地域アセスメントは難しかったですが、統計を読み取って地域の特性と結び付けていくという学修はとてもためになりました。」					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機は、「必修科目である」38%、「資格取得に必要である」92%、「関心のある科目である」8%であった。母数は13名と少数のため、中央値で見ると「学習到達度の自己評価」4.（2）の項目はいずれも4.0であった。以上より、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみて内容的妥当性はあると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価では、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」（平均4.0、中央4.0）、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」（平均4.0、中央4.0）、「説明は理解しやすいものであった」（平均3.5、中央4.0）、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」（平均4.4、中央5.0）、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受けつけ、それに答える機会が作られていた。」（平均4.5、中央5.0）であった。 図書館やインターネットの利用状況では、「図書館の図書、雑誌を利用した」42%、「学術データベースの活用」32%、「インターネットやHP」98%の学生が利用していた。「学習量の評価」では、30分以上の予習を「6回」2名（n-13）、「4，5回」2名、「全くしていない」4名であった。また、「授業の課題以外に学習に取り組んだ」3名が回答した。授業では、ラウンドしながら声をかけることや、合間に質問の時間を設けたり、授業後に残って質問対応を行っていたのだが、「わかりやすい説明」についての評価点は否定的な意見が2名みられた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	保健師課程に位置づけられる科目であり、学習課題も多い。DPの到達状況からみると、再試験該当者はおらず全員が達成していた。学生の自己評価では回答者は全員「自分なりの目標を達成した」と回答しており、客観評価ともほぼ一致していると考えられる。 改善点であるが、授業方法のなかでも説明の工夫が必要である。適宜、グループごとに、教員と学生とでやりとりしながらワークを進めていくが、そのなかに積極的に参加できにくい学生もいる。クラス全体への説明では理解できない場合は、個別対応をするようにしているが、自分から質問に来る学生は限られている。授業を進める上で、基本的な知識の確認をより丁寧に行うよう改善する。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	看護学科
氏名	鹿毛 美香

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
産業看護論	3	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、看護専門科目の各領域の概論・方法論を受講し、概ね看護の基盤学習を終えている状況で受講する。また、看護学科専門教科科目のうち「公衆衛生看護関係科目」として置かれている「公衆衛生看護学概論」「疫学」「公衆衛生看護技術論」「対象別公衆衛生活動論」既習し、受講する保健師課程では必修科目となる。そのため、保健師として必要な産業保健の基礎知識の習得とその理解が求められる。今年度は、対面授業8コマで構成され、2年次の「公衆衛生看護学概論」の一単元と連動させ展開している。 学生の受講動機は、「資格取得に必要」が91.0%、ついで「必修科目である」が36.0%であり、今回の受講学生は保健師課程の学生であることが示された。しかし、今後、単位数確保や興味関心をもって看護師課程の学生が受講することも否定できないため、看護師を含めた産業看護職としての活動事例を提示し、演習課題とする等を試みる必要がある。 この科目は、知識・理論を押さえることを重点としているが、その得た知識をどう活用していくのかという学生の発展性にも期待している。そのため、必ず単元ごとに知識・理論の理解→事例課題→知識・活用方法の定着を基本個人ワークとして取り組むようにした。また、毎回授業後に「学びの内容と質問」自由記載させ、個々の学修状況を確認した。また、毎回授業後に「学びの内容と質問」自由記載させ、個々の学修状況を確認した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は，87.83(±5.93)点であり，再試対象者は0名であった．GPAの理想的レベル（成績「優」・「秀」レベルとする）に到達した学生は94.44%，成績「良」レベルが5.56%で，優秀な成績を収めている。 DPの目標別達成率として、DP1「知識・理解」94.98%、DP2「思考・判断」78.95%、DP3「意欲関心」76.77%、DP4「態度」82.66%であった。思考判断では、与えられた課題を解決する際に学習の中で得た知識を活用し、応用していくことが必要であるが、その点でも概ね習得できたことが示された。しかし、「学生の到達度自己評価」においてコミュニケーション力を高め表現する時間が授業時間に少ないと回答している学生が数名いることから、グループワークの内容や頻度について次年度の課題と捉え、検討していきたい。 学生の成績およびDPの目標別達成率からみると、学生は、概ねこの科目の目標に達成していると考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「資格取得」に必要であると認識し、学生は受講している。授業内容としては、「公衆衛生看護学概論」の一単元と連動させ展開している。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からみると平均値は80点を超え、DP1「知識・理解」の到達率は90%、DP4「態度」は80%、DP2「思考・判断」およびDP3「意欲関心」は70%に達しているため、内容的には妥当であるとする。 ③まとめ 以上、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の「到達度自己評価」の平均値は3.9～4.3、中央値は4.0～5.0であった。「学生の到達度自己評価」の平均点でもっとも高い項目は「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」で4.3、もっとも低い項目は「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の3.9であった。 学生による「授業の質評価」の平均値は4.0～4.2、中央値はすべて4.0と高い値であった。しかし、その中で平均値、中央値ともに低い項目は「口頭・文章など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会がつくられていた」4.0であった。 学生の「到達度自己評価」、学生による「授業の質評価」の平均値が低い項目をみると、「自身の考えをまとめ、表現する」という機会の不足が考えられる。また、毎回授業後に「学びの内容と質問」として自由記載させていたが、そのことが、「学生の質問を受け付け、それに答える機会」として受け取られていない可能性があることが分かったため、学生へのオリエンテーション時の説明や質問に対する応答を明確にしていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、看護専門科目の選択科目でありながら、保健師課程の必修科目でもある。基本的な知識の獲得については達成できたが、思考判断の面ではやや課題を残した。この点は、自身を含めた公衆衛生看護学関係科目担当教員と共有し、指導を継続する予定である。 授業を振り返ると、全体的成績としては、目標に達成する成績を修めているが、思考判断力の獲得についてグループワークなどの活動時間をできる限り確保し、改善を図りたい。また、学生へのオリエンテーションにて学生へのオリエンテーション時の説明をより丁寧に行い、質問に対する応答を明確にしていきたい。

学科	看護学科
氏名	木村 政伸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教職概論	2	前期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教職課程の必須科目として位置づけられており、また「教職コアカリキュラム」によって取り扱うべき内容が決められていることから、授業内容の精査は常に行ってきた。 ②全体を、教職の歴史的変遷、法制度などの基礎的知識理解を深める部分と、教職をめぐるさまざまな具体的事例の考察の大きく二つに分けて、授業を組み立てた。 ③後半の教職をめぐるさまざまな事例の考察は、昨今強調されている「チーム学校」という考え方を受けて、学校教育を支える多様な機能に焦点をあてて構成した。スクールソーシャルワーカー、不登校対応専任教員、夜間中学教員、院内学級担任、部活指導員などの実践例を映像を通して、教職の幅の広さ、奥の深さの認識を深めた。 ④学生同士の意見交換を大事にしたいとグループワークを積極的に取り入れた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して やや達成された	知識理解（DP1） やや達成された	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①評価は、2度の小テスト、長短の数度のレポート提出の合計点で行った。前半の教師の服務についてなどの理解は、筆記試験で確認する必要があり、今年度より小テストを実施し、理解の定着を図った。 ②90点以上4名、80点以上90点未満1名、70点以上80点未満1名であった。少人数ではあるが、成績としては、がんばっているように思われる。 ③「知識理解」については、授業及びレポートで当該課題についての調べ学習をまず行わせたが、これについては比較的よくできていたと評価できる。しかし、調べ学習をもとに自らの課題としての認識を深めるまでにはまだ十分ではない。2年生ということもあり、まだまだ進路についての自覚や目的意識が明確になっていないからと考えられる。 ④グループワークを積極的に取り入れたことで成果もあったが、人数が多いこと、学生が慣れていないこともあって活動しているだけというグループがあった。 ⑤アンケートの回答数が2なので、評価はほとんど意味をなさないと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は、教職課程の科目であり、ほとどの大学でも共通するカリキュラムマップにそっており、内容的妥当性については問題ない考える。 ②DPについて 教職課程独自のDPでないために、評価項目が授業のねらいと必ずしも整合的でない。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①毎回のことながら、授業中に行った発言に対して批判的な意見があり、それについては真摯に受け止めたいと思う。しかしながら、明らかな誤解、憶測、思い込みによる批判については、納得はしていない。 ②本時だけに限らないが、受講者が一桁しかない授業評価において、アンケートに示される評価の数字にどれだけ意味があるのか疑問である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①1年後期に開講される「教育原理」が教育学への入門的科目であるので、本科目が職業としての教職に関する専門科目としては最初のものである。ガイダンス的な科目として、幅広く学校教師の仕事についての理解を深めようと考えたが、次年度からは、自らの課題とすることが出来るようにグループワークを取り入れるなど授業構成と方法を改善したい。 ③学生の関心が高いスクールソーシャルワーカーを外部講師として招きたいと考えていたが、実現できなかった。再度検討してみたい。

学科	看護学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育心理学	2	前期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	多様性と人権が守られる幸せな地域の実現と、より良い社会の建設は教育の成否にかかっている。教職を目指す学生には良い社会の形成に関わるという責任と自覚を持って授業に臨むよう学生に求めてきた。シラバスに記載したように教育に貢献できる心理学的知見を紹介しながら「理想を失わない現実主義者」として教師になる内容を出来るだけ厳選して授業に臨んだ。評価アンケートの結果をみるとおおむね達成できたと思われる。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 < 授業評価の指標 > 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	評価の根拠は例年のごとく定期試験の内容である。しっかりと授業者の求める論点に従って書かれている学生が多く、授業者の意図をよくくんで内容を理解していることがわかる。（客観的データとして学生の成績平均を参照して頂ければ分かる）授業アンケートの集計結果も満足のいくものであった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	スマホ時代の真ん中にいる学生たちには言葉による講義だけでは集中力が続かないことは経験上理解している。その為に毎回の授業では映像を見て考える時間を取っている。アンケート結果をみるとこれは概ね好評である。ただ学生らの意見の中には出来るだけ授業者の話をききたいという要望もあるので今後この点を改善して新たな方法を試みてみたいと考えている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	シラバスで提示した学生が達成すべき目標の4点、授業のはじめに説明しておいたこともあり、学生の自己評価および授業者の目から見ても満足のいくものであった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	年度当初の授業目標は達成したものと考えている。しかし多様性と個別化を体現している現代の学生のニーズに対応してグループワークや発見学習など多彩な講義時間の運営方法の工夫とさらなる知恵を出していく必要性を痛感している。

学科	看護学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
道德教育の理論と実践	2	前期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目であるため、学生の意識の上では準備がある程度なされていると考える。ただし、小中時代の道德教育の実施状況から考えて、非常に意識しにくい科目であると予想される。そのため本授業では授業実践としての道德教育を具体的な形で意識できることをひとつの焦点とした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	○2023年度 全体平均81.5、看護学科平均84.2、秀33.3%、優58.3%、良0.0%、可8.3%、不可0.0%、標準偏差9.32 ○2024年度 全体平均78.2、看護学科平均80.8、秀16.7%、優50.0%、良33.3%、可0.0%、不可0.0%、標準偏差7.9。 ○可・不可がおらず、全体平均より2ポイント高く、全体として満足できる結果であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目ということ、また従来型の理論偏重の道德教育ではない実践的アプローチを採用しているということを鑑み、内容的な妥当性はあると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	○授業の進め方としては(1)道德とは何かという理論編(2)日本の学校教育における道德教育の位置づけ(3)学習指導案の構造と授業の実際(4)自分で道德の授業を組み立てる、というものであった。 (3)と(4)に関しては同時並行という形になり、常に自分ならどのような授業にしたいかを考えて授業に参加することを求めた。 ○本年度は実際の学校現場で用いられている各種資料の参照、理解度を深めるための課題等について多様な形式を工夫した。 ○指導案作りに関しては、いくつかの段階を踏んで作成できるよう課題作成・提出を組み合わせた。 ○今年度は道德教育の評価に関する学習を強化した。 ○実際の授業記録動画の視聴を課題とし、その上で授業中に動画を再生・解説するなど、実際の授業の雰囲気や教師の具体的指導方法の習得に務めた。 ○児童生徒を意識した授業づくりの楽しさを一層感じることができた授業としたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	○達成状況は満足できるレベルにある。 ○次年度も今年度同様の達成度を実現したい。また、未提出者が出ないよう段階的な学習指導案づくりの指導を続けたい。 ○授業実践動画の視聴と検討に時間をかけたが、これは比較的理解を深めるきっかけとなったと思う。次年度も同様の試みを継続する予定である。 ○授業時間中に行った指導案作成の演習形式の授業において熱心な取り組みが見られたので、このような形式をさらに取り入れたい。